令和５年度　新居浜市議会 市民との意見交換会

開催報告書

令和６年１月・２月

新居浜市議会

contents

目　次

ページ

市民との意見交換会の概要　……　1

＜記録＞

1月 9日　経済建設委員会　……　2～18

1月25日　市民福祉委員会　……　19～31

2月 1日　企画教育委員会　……　32～45

新居浜市議会市民との意見交換会の概要

１開催目的

市民との意見交換を通して市民の多様な意見を把握し、政策形成に反映させるため、市民（団体）との意見交換会を開催する。

２開催結果

日　時　令和６年１月９日（火）　１３時３０分～１５時

経済建設委員会

・参加団体　新居浜建設業協同組合

・テーマ「持続可能なまちづくり」

・開催場所　新居浜建設会館

令和６年１月２５日（木）　１９時～２１時

市民福祉委員会

・参加団体　産婦人科医、小児科医、助産師、保育士、子育て支援団体

・テーマ「こどもを育てやすいまちづくり」

・開催場所　ゆりかごファミリークリニック

令和６年２月１日（木）　１６時～１７時

企画教育委員会

・参加団体　愛媛県立新居浜東高等学校生徒

・テーマ「帰りたいまち、住みたいまちにいはま」

・開催場所　愛媛県立新居浜東高等学校

経済建設委員会

日時　令和６年１月９日（火）　１３時３０分～１５時
場所　新居浜建設会館

＜テーマ　持続可能なまちづくり ＞

【司会】経済建設委員長：黒田　真徳
【参加者】※敬称略

（経済建設委員会）
・黒田　真徳議員（委員長）
・田窪　秀道議員（副委員長）
・近藤　司議員
・篠原　茂議員
・越智　克範議員
・片平　恵美議員
・加藤　昌延議員
・渡辺　高博議員

（新居浜建設業協同組合）
・白石　誠一（理事長）
・徳久　晴彦（副理事長）
・白石　哲也（理事）
・横井　大輝（理事）
・白石　尚寛（理事）
・米谷　慎太郎（青年部会長）
・野田　慎太郎（事務局総務課長）
・石村　秀（事務局）
・渡邉　裕哉（事務局）

記録

●黒田議員＜委員長主旨説明＞

今回、テーマとして「持続可能なまちづくり」を選んだ趣旨について説明させていただく。

現在、日本では新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が緩和されつつあるものの、長引く物価高騰が、家計や事業活動に深刻な負担を与えており、コロナ禍からの経済社会活動の回復が大きく遅れる状況となっている。建設業界においても、資材高騰、人材不足に加え、時間外労働の上限規制が適用される、いわゆる 2024 年問題等、業務の遂行や事業継続について、多くの課題を抱えていると伺っている。新居浜市においても、長引くコロナ禍対策等で、財政調整基金が大きく目減りしているが、新市民文化センターの整備や老朽化した施設の建て替え、維持補修等が不可欠なインフラが増加の一途をたどっている。

このような大変厳しい状況下であるが、市と業界が力を合わせて未来へ向け、よりよいまちづくりを行うために意見を掘り下げられればとの考えから、今回のテーマを決定させていただいた。

早速ではあるが、建設業協同組合の皆様に、建設業界の現状、意見、要望、今後の新居浜市のまちづくりについてお話を伺いたい。

○野田課長（新居浜建設業協同組合事務局）

災害復旧と組合の取組、建設業界の現状、課題、要望、新居浜市の未来像の大きく３テーマについて発表する。

まず、我々の組合について。新居浜建設業協同組合は、昭和 35 年に設立された地元建設会社が所属する団体であり、現在は 49 社が加盟している。道路や河川の整備や建物を建てるだけでなく災害時の応急対策業務を最優先事項として位置づけており、愛媛県庁や新居浜市役所と連携しながら災害対応力の強化に努めている。日本は地震、台風などの災害リスクが高い国である。元日に能登半島を襲った地震が発生し、多くの方が被災され甚大な被害が出ており一刻も早い復興、平穏を願うばかりである。新居浜市においても平成 16 年には８月から 10 月の３か月、度重なる台風災害に見舞われ死傷者も出る大きな災害が発生した。大規模な災害が一旦発生すると人命救出、ライフラインの復旧に向け昼夜を問わない土砂撤去作業や復旧作業などが行われ、被災後も未来に向けた防災工事なども欠かせないものとなっている。昨年７月に発生した台風６号が沖縄地方で迷走し、東へ向かう予想となっていた。しかし、突如進路が北上へ向かう予想に変わり豊後水道を通過する愛媛県にとっては多大な被害が考えられると懸念し備えていたが、大きく西へ進路がずれる形となり再度変更となった。

このように従来では考えられない進路をたどる台風も近年は多く発生しており、非常に災害対応の難易度は上がってきている。台風６号では、大きく進路変更したことにより本市の市街地では大雨等の被害はなかったが、別子山地区では１時間に 50㎜を超

える雨が長時間降り続き、鹿森ダムは緊急放流、別子山では未明に土砂崩れが発生し、生活道路の新居浜別子山線が通行止めとなり応急対策作業が必要となった。このように多くの被害の形があり、こういった台風の進路から大きく外れていても、線状降水帯等の発生により予想できない災害が発生し、緊急に市民の安全確保に対応するケースは増加してきている。

さらに、今後 30 年以内に発生する確率が 70～80％と言われる南海トラフ巨大地震では、津波被害も合わせると 32 万人以上が亡くなる甚大な被害が想定されており、昨年１月には 20 年以内の発生率が 60％以上と発表されている。

当組合では、当初申し上げたように災害時の応急対策業務を最優先事項と位置づけ、愛媛県庁や新居浜市役所と連携しながら災害対応力の強化に努めており、令和２年度より様々な災害ケースを想定し、情報伝達方法、情報共有の一元化がスムーズに図れるようご協力をいただき、合同防災訓練を実施している。

また、パトロール担当箇所を事前に設定しており、有事の際には即時情報収集が可能な体制づくり、河川護岸の決壊や浸水等に対応するための大型土のうを川西、川東、上部の計３か所に、それぞれ１か所ずつ 60 袋の備蓄を行っている。使命感を持ち、日々組合員が一丸となりこういった災害に取り組んでいる中で、我々建設業界において継続の課題となっているのが、ヒト、モノ、カネ、トキである。

ヒトは、建設業の従事者。いわゆる建設労働者。

モノは、デジタル、ＤＸ化、ＩＣＴ化に対応した資機材への対応。

カネは、物価高騰、賃金上昇、設備投資が工事価格への転嫁が難しい現状である。また、同一労働、同一賃金という正規労働者か否かで賃金差が生じるのは不合理な差であるという考えがあるが、同じ資材、建設重機等を用いて施工し、まさに同一労働、同一賃金ともいえる工事が、都会と地方で差異があるのは、地域間格差で片づけてよい問題ではないと考えている。

トキは、工期である。建設業の 2024 年問題ともいわれる罰則付き時間外労働の上限規制が開始され、これに対応した働き方が必要となるため、一人の社員がこなせる仕事量が大変減少する。同じ仕事量をこなすためには人を増やすか、工期を延ばすなどして既存のリソースで対応できる体制を取らなければならない。しかしながら、公共工事の工期の見直しについては、徐々に改善していただいていると感じているが、民間工事においては、完成が早ければ早いほど利益につながるというのが発注者の望みであり、理解が得難いのが実情である。

以上のような、建設業界における４つの課題解消に向けて取り組んでいくことが、我々建設業界の継続に向けて避けては通れないものとなっている。

本日はこの４つのうち、迅速な災害対応には欠かせないヒトについての現状と取組、要望について聞いていただければと思う。

まず、建設業のヒト、いわゆる担い手確保が困難な背景としては世界中の問題となっている人口減少が多大である。2060 年には愛媛県の人口が 78 万人に減少し、減少率が 41.3％。新居浜市においても若干減少率は少ないが 33.9％、人口７万 6,000 人となる

と愛媛県人口問題総合戦略推進会議より公表されており、今後も県立高校や、新居浜市小中学校の再編も進められるなど今後もより厳しい状況が予想されている。

建設業においても３ページのグラフにあるように、ピークとなる平成９年には 685 万人の建設業就業者数だったものが令和２年には 492 万人に減少しており、技術者は 41 万人から 37 万人、技能者は 455 万人から 318 万人へと減少している。

また、年齢構成をみると 55 歳以上が全体の 30%以上を占め、逆に 29 歳以下の若手は 10%程度となっており、人数減少と高齢化が急速に進んでいる産業となっていることが見て取れる。自治体においても技術系職員が大幅に不足しており、経験工学ともいえる建設業界全体の担い手がいない、外国人材の活用を考えるしかないといった現状である。

我々の組合では、若者に少しでも建設業の魅力を理解してもらい将来の担い手となってほしいという思いのもと、新居浜工業高等学校の１年生の生徒さんを対象に建設業の役割、最新の建設技術、現場での施工管理を知ってもらい、触れてもらう体験学習を平成 27 年より毎年実施しており、昨年 11 月に９回目となる体験学習を、四国地方整備局、東予地方局、鹿島建設株式会社、白石建設工業株式会社、株式会社愛亀さんにご協力いただき実施した。

当日の報道映像がこちらである。少しご覧いただきたい。（動画視聴）

報道にもあったように有効求人倍率は高く、深刻な人材不足は映像のとおりである。また、市内の中学生を対象とした建設現場の見学も行っており、中高生ともに体験を通じて建設業の魅力を感じ取ってもらえているなという手ごたえは少しずつ感じている。しかしながら、新居浜市内には建設系の教育学科、機関が存在せず建設業界に入職する足掛かりが途絶えてしまっている現状である。ぜひ、担い手確保のためにも建設系教育機関の創設を強く願う。

最後のテーマとなるが、新居浜市の未来像についてである。新居浜市総合戦略において取り組まれている施策と重複する点はあるが、我々においても理想の未来像をコンパクトシティに向け、人口減少しないまちづくりとし、実現するためにはどのようなまちづくりがよいか検討してみた。

現在の少子化対策の効果が最大限に発揮されるのは早くとも成人する 18 年後ではないかと推測されるため、超長期的な取り組みが人口減少しないまちづくりには必要と考えている。

必要な取組として一つ目は、子育てしやすい魅力ある支援制度である。これについては事務局女性職員の石村より説明する。

〇石村さん（新居浜建設業協同組合事務局）

子育てしやすい魅力ある支援制度について、３点説明する。

１点目、既存の助成金制度のＰＲ促進について。ここ２、３年で出産した友人たちに、出産育児一時金などのメジャーな助成金ではなく、そのほかのマイナーな助成金や行政サービスについてどこで知ったか伺ったところ、出産経験のある友人や家族に聞いたり、インスタグラムやティックトックで、助成金についてまとめているアカウントがあるため、そこで知ったりしたというような意見があった。そういった、紙の広報紙を読まない、市役所ホームページを見

ない若年層への周知促進のためには、手軽にどこでも情報を得られる自治体公式ＬＩＮＥでの周知が有効的ではないかと考える。

（新居浜市公式ＬＩＮＥの画像）

こちらは新居浜市の公式ＬＩＮＥだが、現在約 25,000 人が登録している。このようにコロナ、基本、防災と３つのカテゴリーに分類され、日々様々な情報が発信されている。続いてこちらは、埼玉県川越市の公式ＬＩＮＥである。川越市は子育てに力を入れている自治体だが、御覧のとおり、３つのカテゴリーのうち一つを、完全に子育てに割り振っている。ここでは、ＬＩＮＥから直接子育て関係の予約ができ、事前に子供の生年月日を登録することで月齢に合わせた情報を自動で受け取れるようになっている。新居浜市公式ＬＩＮＥでは、基本のカテゴリーから、くらしの情報をタップすると、子育てに関する情報ページにつながるが、トップページに子育ての枠を移動させることで、直感的に操作もしやすく、また子育て世代でない人にも「新居浜市は子育てに力を入れている」と分かりやすくアピールができ、かつ出産に迷いのある人にも新居浜市で子育てがしたいと考えてもらうきっかけになるのではと考える。同時に、来る南海トラフ地震に向けて、既にある防災カテゴリーを緊急時に活用するためにも、ＬＩＮＥの登録者数を増やす取組が必要である。

続いて２点目、出産後の女性がキャリア継続できる支援策について。同世代の女性と話したときに、地元企業だと産休、育休の取得実績がなかったり、出産イコール退職の暗黙の了解があったりといった話をよく聞く。業種にもよるが、地元中小企業だと、休業期間中の人員の補填が容易ではなく、そういった現状にならざるを得ないのかと思うが、女性が子育てをしながらキャリアを継続していく上で、産休、育休を気兼ねなく取得できることはとても重要なことだと思う。仕事と育児の両立という点で、新居浜市役所では女性だけでなく、男性の育児休暇の取得率アップに向けて、イクボス宣言をはじめ、いろいろな取組をされているかと思うが、そういった取組をぜひ地元の中小企業にも働きかけてもらいたいと思う。こちらは厚生労働省の資料だが、端的に言うと男性の家事、育児への参加時間が長くなればなるほど、女性の継続就業割合が高く、第二子以降の出生率も高くなるといったデータが出ており、男性の育休取得で出生率が上がり、将来的には次世代の担い手を増やすことにつながる。産休、育休の取得実績が上がれば国や県から企業に対して助成金が出て、実績があれば若年層からも就職先として選ばれるきっかけにもなると思う。先のことを見据え、新居浜市全体を巻き込んで子育てに前向きな町にすることで、女性のキャリア継続につながるのではないかと考える。

３点目、教育費負担の増大について。現在新居浜市では、低所得世帯やひとり親世帯に対しての支援制度はあるが、現制度の対象にならない世帯でも、多子家庭だと進学費用の捻出が厳しく、現状、奨学金ありきの進学となっている家庭も多い。新居浜市では、ＵＩＪターンの奨学金返済事業を行っているが、該当者が県外に出る前の学生のうちから周知をすることで、卒業後新居浜に戻り、地元企業へ就職するという選択肢が増え、少しでも若年層の流出を防ぐことができるのではと考える。進学を機に県外

の新しいものに触れた若年層が戻ってきたくなる町にするためにも、奨学金返済事業の周知と支援金額の増額を検討いただきたいと思う。

〇野田課長（新居浜建設業協同組合事務局）

様々な少子化対策に向け、支援制度が拡充されることが必要と考えるが、先日、国から３人以上子供がいる世帯は子供の大学授業料などを無償化する方針との報道があった。地方においては、３人目が産めるための３人未満の子供がいる世帯への支援策が、より必要ではと感じている。

１つ目の取り組みとして、神奈川県の三浦市では、12 歳以下の子供もしくは妊婦のいる世帯を入居対象としてＰＦＩを活用した公営住宅、三浦市子育て賃貸住宅棟整備事業を現在整備中である。市民センターや図書館分館、市役所出張所を併設した施設で、子育て支援、行政手続きのワンストップ化の事業化がされている。

こういった施設に、さらに保育施設などをプラスすることができれば、より第２子、第３子を産み、育てたいとなる政策誘導が可能ではないだろうか。

２つ目はコンパクトシティへの市民の協力について。現在公表されているコンパクトシティ居住誘導区域の設定などは大多数の市民は知らないのではないか。暮らしやすいまちづくりのためには、市民の協力や理解はどうしても欠かせないものである。今後、市民への理解や周知は進んでいくことと思うが、ぜひ将来の新居浜市を担う若者、学生に向けたコンパクトシティ構想の広報、周知には特に力を入れていただければと考えている。

これについては、事務局の渡邉より説明する。

〇渡邉さん（新居浜建設業協同組合事務局）

私からは、コンパクトシティなどの政策を若い世代にも関心を得られるような広報をしてほしいと思っている。コンパクトシティを計画していただいているが、実際のところ私の周りや市に勤めている友人でさえコンパクトシティについて認知していなかった。市のホームページでしか概要を確認することができないのではないか。こちらのグラフは、世代別のＳＮＳの利用率で、10 代～20 代はユーチューブやインスタグラム、ティックトックを主に利用している。これらのＳＮＳを利用し広報してみてはいかがか。実際に、他県でＳＮＳを利用した取組があったため紹介する。こちらは、練馬区の選挙管理委員会と東京学芸大学付属国際中等教育学校がコラボし、インスタ映えする選挙をテーマに学生が主体となり投稿している。こちらが投稿の一部であり、こちらのバッグも学生がデザインしたものでイベント時に配布しているそうだ。このような取組が実際に結果にも出ており、右のグラフは 2021 年衆議院選挙の練馬区の投票率と全国の投票率を比較したものである。もともと練馬区自体が投票に対し、関心が高い傾向にあるが、その中でも、若者の投票率

が印象的で 10 代の投票率は 51%、全国の平均値よりも８％高い数値が出ている。このような取組が若い世代の関心を得られているのではないか。こちらは、総務省と吉本興業株式会社が若い世代に選挙や政治に関心を持ってもらうために開催したフォーラムである。若い世代に人気のある芸能人と選挙に熱い思いを持つ若者たちが、政治や選挙について討論している場面をユーチューブで配信し、視聴回数は約２万回再生されていた。繰り返しとなるが、コンパクトシティなどのすばらしい政策を若い世代から関心を得られるような広報をしていただきたい。

また、市民の皆様に対してもコンパクトシティによるメリットだけでなくデメリットについて、例えば、災害時に一極集中したことにより都市機能が麻痺し災害対応ができなくなるなどの可能性も想定し、リスクヘッジを当初から市民の皆さんと協議していくことにより市民の協力、理解は深まっていくと考えられる。

○野田課長（新居浜建設業協同組合事務局）

３つ目は、外国人労働者の定住促進について。現在日本での外国人の技能実習生は、2023 年６月末現在で約 36 万人、特定技能は約 17 万人と多くの外国人が様々な分野で就労、就職している。このうち 36 万人が就労する技能実習制度だが、厳しい職場環境に置かれ失踪が相次ぐ等の事例もあり、人権侵害の指摘がなされていたことから、国において検討が行われた結果、昨年育成就労制度に変更してはどうかという報告が行われ、今年の国会に提出される見込みとの報道がある。この報告どおりの育成就労へ制度が変わると、従来の技術移転が目的の技能実習生では、同一職場で計画的に技能を学ぶとの考えがあり職場を変える転籍が原則３年間認められていなかったが、一定の要件である基礎的な技能、日本語試験を満たせば、同じ仕事の範囲内であれば 1 年で転籍できると言われている。これにより、より高い賃金にひかれ都市部への人材流出が考えられる。地方の中小零細業者が１年間をかけて育てた人材がいなくなってしまうのではないかと懸念されており、地方にとっても人口が減少することとなる。高い賃金以外に外国人の人たちが求めるものは何かということで考えると、やはり日本人と同じく、人と人との結びつきができた働きやすい環境ではないだろうか。環境づくりにはハード、ソフト両面の整備が必要だと考えられるが、これは愛知県の株式会社住宅相談センターが国土交通省の空き家対策の担い手強化・連携モデル事業に採択された事業で、外国人技能実習生の住居として空き家を有効活用し、バディという世話人をつけることで、日常での孤立感をなくし、地域のルールや社会に溶け込み共生していける取り組みだが、これを実施したことにより、地域からの日々の声掛けなどにより技能実習生も、この町の人は家族だと答えてくれるようになっているとのことである。ハード面の環境づくりとして、新居浜市でも市営住宅や空き家住宅を活用し、外国人居住誘導地区を設定し、各受け入れ企業に情報提供を行い居住してもらえれば、外国人がまとまって暮らせ、日常での孤立感を感じずに働くこと、またサービスの提供が可能ではないかと考える。ソフト面では、既に新居浜市においても、国際交流員として活躍されていたファラさんが、外務省

のホームページ内のグローカル外交ネットに、新居浜でゆっくりして行かんかい！というタイトルで新居浜市での事例を掲載してくれていたが、地域の方々の温かさと優しさに触れたことにより一気に不安が晴れ、今はもう新居浜を故郷と呼びたいほど愛着を抱いて、ずっとここにおりたいと思うことができていると書かれていた。そして、新居浜に愛着を持ってくださっているファラさんは、昨年の 10 月にも新居浜市とマレーシアオンライン国際交流を開催し、両国の学生同士、言葉の壁を越えた交流の懸け橋となってくれていた。ぜひ、このようなすばらしい交流会や取組を、外国人育成就労者を対象としたもので開催していただき、生かすべきと考える。あかがねミュージアムや市民文化センターを活用し、継続した多文化国際交流イベント等を実施することにより、深く地域の人々との共生が図れ、外国人育成就労者の人たちが新居浜市でずっと働き続けたいと思ってもらえるソフト面での環境づくりが必要だと考えるため、よろしくお願いしたい。

最後となるが、４つ目は、未来に向けた都市基盤整備について。まず、四国屈指の臨海工業都市として、新たな物流、交通網の整備は欠かせないものである。現在工業物流のメイン道路となっている、県道壬生川新居浜野田線、新居浜角野線、新居浜駅菊本線、国道 11 号線が考えられるが、こちらは一般車両も多く利用しており、地域の車社会の中では、既存の道路の改良のみでは円滑な物流実現は難しいのではないかと思う。そこで、磯浦から東部工業団地までの間を、重要物流専用湾岸防災道路と名付けて創設。また、国領川右岸、新高橋より城下橋までの河川敷を、郷桧の端線、県道新居浜東港線へのアクセスとして南北物流専用防災道路を整備することはできないか。テールアルメ工法等、いわゆる盛り土を用いた湾岸道路とすることで、物流の円滑化と同時に防潮堤機能をもった防災道路として市民の安全に寄与できることが可能になると考える。加えて、磯浦から西条インターまでの直線道路の創設も進めることにより、ＪＲ中萩駅への貨物ターミナル移動等も実現でき、未来への夢がある道路になると考える。また、先ほどの重要物流専用湾岸防災道路を創設することにより、市内中心部の物流車両の乗り入れ減少が図られるため、現在新居浜市が実施しているデマンドタクシーサービス、おでかけタクシーに加え、公共交通機関、ＢＲＴを導入し、神戸市のような専用運行コースを新居浜市でも駅、商店街、病院、大型商業施設を結ぶコースでの運行や、人口規模がほぼ同じの会津若松市で実証実験が開始されているスマートフォンや電話で呼び出せる、どこでもバス等を実現させればコンパクトシティ化による利便性の享受、中心部への人流誘導、渋滞、事故緩和につながるのではないかと考える。

２つ目は、防災公園の整備について。防災公園は、災害時に避難者の生命を保護する避難地等として欠かせないものだが、新居浜市ホームページでの公園紹介を見てみると、上部地区においては、山根公園、中萩きらきら公園、川東地区については、多喜浜公園、神郷公園など、防災の標記、また防災公園の定義に当てはまる公園があるが、市街地の川西地区には、滝の宮公園、中央公園等、都市公園としては非常に魅力的な公園は整備されているが、防災公園の設置はさ

れていない。市街地のコンパクトシティとして居住誘導地区のメインとなる川西地区への防災公園の整備は必要ではないか。整備場所の一つの案として、新居浜市前田町の住友重機体育館跡地は、芝生広場として整備するだけで災害時のみならず、平常時には、大型商業施設との連携も可能な、市民の憩いの場所として活用できる場所である。また近隣には、給食センター、市役所、病院等も近く、非常に利便性の良い場所ではないかと考えている。もちろん、公有地ではなく民間の所有地であるため、整備の実現は簡単ではないと思うが、整備実現の推進をぜひご検討いただきたい。

３つ目は、公共施設の統廃合、再編として茨城県の鹿嶋市が行った事業について。老朽化した５つの小中学校のプールを集約化し、維持管理の負担を軽減することなどを目的に学校プールと市民プールとしての機能を併せ持った効率性、利便性の高い屋内プールとして整備した取組である。新居浜市においても、東雲市民プールは全国的に２か所のみの公営 10 円プールとして市外、県外に誇れる施設として市民より愛されているが、昭和 47 年に建設され維持、修繕はされているが老朽化は否めないものとなっており、また、小中学校のプールも老朽化しているところも多いのではないか。ぜひ、鹿嶋市のような集約化、また、市民に愛されているプールであるため、クラウドファンディング等も呼びかけ、今後は県民に愛される 10 円プールとして、新東雲市民プールの更新整備を望みたいと考えている。

以上、地域の安全と未来のためにというテーマで、新居浜建設業協同組合での取組、建設業界の現状、課題、要望、新居浜市の未来像についての発表を終わる。

【質疑・応答】

●越智議員

災害についての対応は、非常に良い取組で対応していただいていると思う。一番感心したのは、パトロールの担当箇所をつくっているということ。どこで災害が起きたのかをいち早く発見するために動かれているのは一番すばらしいと考える。最初の説明であったように、能登半島の災害を含め、こういった災害はいつ発生するか分からない。災害発生時に、建設業界の方々がこのように率先して動いていることは、知らない人が結構いるのではないかと思う。私たち議会も、ここまで動かれていることはあまり知らないため、一般市民の方も、ここまで建設業界が災害に取り組まれていることを知らないと思う。令和５年の別子山の土砂崩れの際もひどい状況だったところを、このように改善したことを私も知らなかったのだが、もっとアピールすることによって建設業協会がどんなことをされているのかなどを知っていただくタイミングになると思う。その方法は何かないのかと思うが、その辺はいかがか。

○白石理事長（新居浜建設業協同組合）

過去には、建設工事が悪いという、失われた 30 年も前の時代があり、今我々は、防災、減災に対し必要な公共工事は絶対に請け負うという中で、新居浜地域としては平成 16 年の台風の被害の時に改めてこういった活動が必要だと目が覚めた状況になった。そのため年々バージョンアップし、ここ数年は、市、県、我々建設業協同組合とで合同で訓練をするということで、2011 年の東北震

災での語り部をしてくれている仙台建設業協会の深松会長が無償で事例などを忘れてはいけないという講演をコロナ前である４、５年前に全国で開催していただいていた。好評だったため、我々も深松会長に来ていただきリーガロイヤルホテルで行った。まさにこの１月１日の能登半島地震ではないが、ガソリンは常に満タンに入れるなど、失われた建物は修理したら治るが、失われた命は取り返しがつかないなどの部分を教訓にしながら、現在はＰＲというより行政も含めて訓練を繰り返すことにより、忘れないでこのような体制を維持していっている状況であるため、上手くＰＲすることが難しい中で、今回唯一ユーチューブ放映をしていただけることは本当に有難い取組である。先程の令和４年の台風のことも触れたが、件数としては県との災害協定を結んでおり年間維持ということで県道に関しては、毎年100件以上は24時間体制で取り組んでいることは事実であり、県の方々にも感謝されている。例えば、県道で事故が発生しオイルがこぼれた際にも我々はオイルを取りに行くなど、そういうことも担っていることをユーチューブで配信いただくことは最大のＰＲになると思う。

●近藤議員

この災害復旧、復興についての取組や課題だが、平成16年に新居浜市が大災害に遭った際にも、非常に建設業協会の方々に活躍をしていただいたわけだが、その際に災害対応などに苦労したのではないかと思うが、その辺りは業界としてどのように考えられているのか。当時は土石流による災害が多く、砂防もかなり造った。現在はドローンなども取り入れて予防的で事前的な防災をされていると思うが、その辺りについてどのように考えているか。また、今後の事前防災について、どのようにお考えか教えていただきたい。

○徳久副理事長（新居浜建設業協同組合）

災害発生時の土砂や瓦礫などの仮置き場の件だが、平成16年災害の際は、黒島公園や磯浦、菊本、山根等々あったが、現在は菊本の埋立ての所は置けない状態となっている。黒島公園のところは少し残っているが、新居浜市には現在土砂置き場の埋立てできるところは一切ないと思う。建設業協会では、内陸型の埋立用地を確保するということで、独自である程度動いているが、熱海の土砂災害があり、現在難航している状況である。新居浜市議会と新居浜市の職員の方が来ていただけるともう少し話が進むのではと思うため、協力をよろしくお願いしたい。

○白石理事長（新居浜建設業協同組合）

発展的なものでは、ドローンの免許を取得し協会もドローンを保有している。現在の東北や北陸の震災でもドローンが活躍している。今後ドローンに対する地域の安全、安心という観点から、我々はどんどん許可を持った人を増やしていくという方向性を現在持っている。市に対する要望は、我々はドローン対策に積極的に取り組んでいるた

め、逆にドローンを使ったような事業を発表できる場などを設けてほしい。現在「親子防災スタートＤａｙ」など建設業協会で子供に建設業の担い手という問題に対する活動をしている中で、我々ももっと成長させていきたい分野もある。ぜひ協会として呼びかけていただき、ドローンの発表などの場を与えてもらえるのであれば、いつでも参加できるよう準備していこうと思う。

●加藤議員

建設業というとほとんどの方が、物を建てるとか、道路を整備するということでしか認識がないと思うが、地域に安全、安心な防災、減災について、積極的に取り組んでくださっていることを、心より感謝申し上げる。新たな物流とか交通整備での提案などもあるが、平成 16 年の災害時に、多喜浜から東の 11 号線の道が分断され、東に行けない状況になった。その状況が長く続いたことで、東の方から新居浜に来る、あるいは新居浜から東の方へ行くことがとても困難になった。今後南海トラフ大地震を想定した時に、東に行く物流を運ぶ、運んでいただくという観点からして、インフラ整備についてどのような考えを持っておられるのか。新しい道路整備、マリンパークからの道を一気に 11 号線までつなげた方がいいのかなど、新しいインフラ整備について建設業協会の皆様が、今後どのように考えられているのか伺いたい。

○白石理事長（新居浜建設業協同組合）

本日の話にもあったように川東で交通が止まっていたが、基本的に平成 16 年災害の教訓でいくと、西も東も行けず陸の孤島となった現状があるが、新居浜バイパスが今年開通すれば、西条から新居浜に来ることは問題ない。荷内側は間違いなく年に 1 回は通行止めにするなどしているが、11 号線もなかなか厳しい。川東でストップしているものを湾岸道路で四国中央市へ結んでいただけると、市役所前の産業道路の右折レーンができ大型が離合しにくいような状況も、後々未来像を描く中では絶対よろしいかと思うが、できることであれば東予連携の広域的な道路、産業道路をつないでいただくことで、すばらしい地域ができるのではないかと思う。

○徳久副理事長（新居浜建設業協同組合）

川東に耐震バースができるのだが、道路が全部封鎖された状態で、物資を海からしか運べない状況になった場合、耐震バースまで行く道が新居浜市側において耐震道路になっていない。湾岸道路を海から抜け、マリンパークのところから橋を架けて黒島工業団地まで、そこから四国中央市まで湾岸道路で一気に抜ければ良いのではないかという構想はあるが、現実的には難しく構想だけの状態となっている。建設業協会の中では考えとして持っているということを伝えておく。

●加藤議員

防災、減災ついては待ったなしという状況のため、今後も取組をよろしくお願いしたい。

●黒田議員

防災、減災について最後に、能登半島地震の悲惨な状況を見て新居浜市として、また現在の建設業協会として、もっとできることがあるにも関わらず、物資や人が足りず連携ができず、もどかしいということはあるか、現場に携わる方の声を伺いたい。

○野田課長（新居浜建設業協同組合事務局）

まず、先ほどの災害復旧に向けた人の問題については、繰り返しのお願いとなるが担い手が少しでも増え、災害復旧やインフラ整備に関わる人間が増えていってほしいという切実な思いもあるため、ぜひ建設系教育機関を、学科だけではなく夜学など何らかの建設業入職のきっかけとなるような学科設置を強く望みたいというのが我々の要望である。

●黒田議員

２点目に担い手不足など業界の抱える現状、課題、要望について、委員の皆様から意見、質問はあるか。

●片平議員

外国人材について。私は金子小学校の校区なのだが、以前に防災運動会を実施した際、ベトナムの方が４名来られており一緒に参加した。バケツリレーをしたのは初めてだと喜んでいた。仕事はすごく楽しくしているが、なかなか地域とのつながりがないということを伺っており、金子の防災運動会も日本語教室の先生が連れてきてくれたとのことだった。なかなか自治会の中に外国の方が参加されることは今までないのではと思うが、地域の中でのつながりということで工夫するような点や、こういう働き方があれば住んでいる人が安心するのではということがあれば伺いたい。

○徳久副理事長（新居浜建設業協同組合）

私の会社でもベトナム人材が３名いる。少し前までは10名ほどいた。コミュニティーとしては、日本語教室と国際交流協会などがあり、日本語教室の先生が開いている協会だったかと思う。そこで、クリスマスパーティーやお正月行事など、ある程度のコミュニティーを広げていただいているが、仕事もしているため時間のことを考えるとなかなか難しい。独自に外国人同士のつながりは結構あるようで、新居浜市の河川敷で花見をした際は200名ほどの人数が四国中から集まったと聞いた。河川敷はとてもすばらしいところであり、外国人同士の交流は結構あるようだ。新居浜に定住してもらうには新居浜の人と外国人が上手くコミュニティーを広げる方法を考えていかなければならないと思う。現在試行錯誤している状態である。

○米谷青年部会長（新居浜建設業協同組合）

私の会社にも高度外国人材の方がコロナの影響で２年ほど延期になり来ることができなかったのだが、ようやく昨年５月に来ることができた。技能実習生と違いビザを更新すると日本にいることができるということで、日本人の社員も最初はどうなのかという気持ちだったが、関係も良好になり戦力になっていた。また、来月２月にも１人来る予定。日本人を採用しないということではないが、人材が不足しているため外国人も定期的に採用しながら今後もやっていくしかないと捉えている。

●越智議員

人材確保の中で、中学生や工業高校生が見学や視察をしたりする取組はすばらしいと思うが、一般的に建設業界というと、あま

り休みがなくきつい、非常に厳しい環境で作業しないといけないなどの理由で働く人の人材確保ができないイメージがあるが、工業高校生や中学生に教育をすることでイメージは最近変わりつつあるのか。

○白石理事長（新居浜建設業協同組合）

まさに 2024 年問題で働き方改革の部分が進んでおり、今年は本番の年であり、先ほど越智議員がお話されたのは過去の３Ｋである。新３Ｋである休暇、給料、希望について、ここ４、５年ずっと取り組んでおり、市議の皆様方に一つお願いがある。新居浜工業高等学校と担い手不足の問題において交流をしているが、学科がないことが一番の問題。新居浜市東予圏域の有効求人倍率は 1．７倍ほど。建設に関しては 11 倍を超えている。とてつもない数字となっていることは事実である。３、４年ほど前に東予圏域全ての建設業者、水道業者、設計業者それぞれにアンケートを実施したところ、やはり建設系の学科がほしいということで、我々も県へ何回も出向きいろいろ取り組んできたが、結論としては新居浜工業高等専門学校に建設学科をぜひ創っていただきたい。新居浜工業高等専門学校であれば、四国中から学生が集まり就職希望を出してもらえるのではないかという話もあった。四国４県の中で建設学科がない高等専門学校は愛媛県のみである。設計などいろいろな観点の方が建設人材を求めている中で、まして我々の業界は 11 倍というこの地域独特の中で、ぜひ議員の皆様方にそのような声を上げていただきたい。

●近藤議員

建設系の教育機関の誘致や創設について、以前建設業協会から相談を受け動いた経緯があるが、建設系の教育機関の誘致について、現場である新居浜工業高等専門学校では余地がないという話になったのだが、産学官と行政、政治も含めて文部科学省へ働きかけるような協力をして提言していただければと思う。

○白石理事長（新居浜建設業協同組合）

建設業界だけでなく、建設関連団体は全てこのような悩みがあり、間違いなく言えることは、県や新居浜市の建設部に新しい方が入ってこないこと。新しい人が入ってこないと防災、減災の仕事もなかなか難しい現状が間違いなく目に見えている。そこの辺りを切り口にして運動の方をよろしくお願いしたい。

●近藤議員

新居浜市は数年前に歯科衛生士が少ないということで、歯科衛生士の専門学校を誘致したのだが、少子化対策につながるものでもあり、若い人たちが集まってきて将来の新居浜市にも非常に良いことであるため、一緒に取り組んでいければと思う。

○白石哲也理事（新居浜建設業協同組合）

高度外国人材や技能実習生、担い手不足など業界の説明をさせていただきたい。建設業のイメージは、危険で休日がなく給料が安いという３Ｋのイメージは未だに払拭されていない中で仕事量が増えている。昔は現場に出て作業するイメージが強かったが、現在は測量やＣＡＤ、パソコンが使えて現場の総合管理である調整も必要である。水道や道路など地元対策もして、休日管理をしなければいけないというとても厳しい状況となってきている。同一作業、同一賃金になっていないことがあり、愛媛県の公共工事の積算として一例ではあるが、地域の

普通作業員は１万7, 000円となっているのだが、東京だと２万円。管理する人だと愛媛は２万5, 000円だが、東京だともっと高い。同じ一級の現場対応の資格を持ち、日本全国どこに行っても同じ品質管理をつくっている我々からすると、愛媛県に住んでいることでなぜ単価が安いのかと感じる。機械が故障し機械を買い替える場合は、東京も大阪も新居浜も機械は同じ単価だが、労務費に差がありすぎると待遇に差がどんどん出てくる。同じ仕事をするのであれば少しでも給料が高い東京に行こうという考えになり、ＩターンやUターンも足止めしてしまうことが多くあり、担い手不足に拍車がかかっている現状である。同一作業、同一賃金を考えていただき、補正などをしながら経費に上乗せし各地域との差がないように、作業した分だけの従業員が満足に利益を受けられるような体制を取っていただきたいと思う。

●黒田議員

最後に移る。持続可能なまちづくりにおいて、新居浜市の未来像についてのテーマ以外でも構わないので、市議会や市に対して日頃から感じている意見や要望があれば伺いたい。まず、議員の方から新居浜市の未来像について意見があればお願いしたい。

●篠原議員

本日は、地域の安全と未来のために大変すばらしい取組をしていただいていると感じた。7ページにある、コンパクトシティーに向けた人口減少しないまちづくりの隣に、市民の協力といったものがあり、少し内容は違うが日頃私が考えていることをお話させていただきたい。政府はデフレ完全脱却のため、総合経済対策、日本経済の新たなステージに向け５本の柱を掲げている。その中に国土強靭化、防災、減災など国民の安心、安全の確保における提案もある。国土強靭化計画は令和３年度から令和７年度までの５か年計画で進められているが、予算が取れやすいと言われており愛媛県でも大変力を入れている。新居浜市でも、がけ崩れ防災対策事業、砂防事業等の対策事業があるが、本市では国土調査が進んでおらず地権者不明の土地が多くあるため工事が進んでいない。そこで提案だが、国土調査の進展を要望することはもちろんだが、地権者の発掘を行政だけに任せるのではなく、私たち議員や地元で活躍している建設業の皆さん、市民の皆さんの協力を得て地権者を探し工事を進めることで市民の安全、安心につながり、国の予算を確保することにより建設事業者の方の仕事量を確保することにつながると思う。ぜひ皆さんと一緒に協力してこのようなことを進めていけないかと私から提案する。

●加藤議員

コンパクトシティーに向けた人口減少しないまちづくりとして、子育てしやすい魅力ある支援制度の中で、国は困っている方々に補助しているが、現在本当に何が困っているのかというとこが重要である。独身者や現役で仕事をしている方々、大学を卒業し働き始めた方が、増税で手取りが少ないといった中で奨学金を借り、返済が必要な状態で働き始めた中でなかなか結婚できないという問題が山積みされている。新居浜市においては最大 60 万円という奨学金の補助として返済支援に取り組んでいるが、まだまだ足りないという声も聞いている。人口減少が進むにつれ働き手が少なく

なる、一人一人の仕事量も増えどんどん大変になってくる。建設業界の担い手不足にも人口減少が関係しており大変問題とされているところだと思うが、奨学金を借りたお子さんやご家庭に支援をしていくことも大切ではないかと思う。独身者への支援や補助についての提案などを伺いたい。

〇石村さん（新居浜建設業協同組合事務局）

奨学金や独身者の補助について、普段はこういった分野に関与していないため一市民からの意見となるが、給料が下がっている中で増税負担が厳しい状況において、私も奨学金返済支援事業を活用しているが、支援事業については新居浜市へ戻ってきてから知った。コロナ禍をきっかけに都市部からこちらに戻ってきたが、１年後くらいに知り合いから制度があることを教えてもらった。これを知らないだけで 60 万円もらえない。もらえるのともらえないのとではかなり違うため周知をしていただきたい。奨学金の返済が滞っており結婚できないという意見も実際に聞く。できれば増額を考えていただきたい。また、お金がないことで進学を断念してしまわないような支援をお願いしたい。国だけでなく県も市もいろいろな支援があると思うため、周知徹底していただくだけでもだいぶ変わってくるのではないかと思う。

●加藤議員

奨学金については所得制限や、進学して学びたいが学ぶことができないなど、家計状況により学力に差があるということは日本の問題でもあるため、しっかり提案しながら誰もが学べる環境をつくるというところも、今後の働き手につながっていくと思うので働きかけていきたいと思う。今後とも子育てしやすい環境づくりを目指して新居浜市もうまくやっていけたらと思うため、よろしくお願いしたい。

●渡辺議員

以前からの私の課題意識の中で、建設業に限らず新居浜市は所得が低い感覚があり、白石哲也理事からもお話いただいたように同一賃金という考え方は言い続けなければならないことだと思う。建設業に関しては、大阪で万博開催にあたりパビリオンを造る人がいないということでいえば、当然人件費は上がり、円安により資材も上がり非常に建設資材が高騰している話があるが、オリンピックや災害の時は人が取られていく。給料が高い点でいうと東京などへ出ていく。そこが横並びといわなくても、少々修正されれば生活環境をトータルで見たときには本市にも魅力が出てくるはず。新居浜をベースに活動されている中で、市の公共に関する補正をするだけではなく、民間の活動をされる中で同一作業、同一賃金に近づけるためには何が欠けているのか、何をすれば良いのかなど考えられていることがあれば伺いたい。今後検討していく中での参考としたい。

〇白石哲也理事（新居浜建設業協同組合）

この地域が不安定になるのは工事の安定した発注がないところであり残念な部分である。市議会議員さんや県議会議員さんが尽力して工事をつくってくれているが、皆さんが思うような受注できる工事量がないということ、インフラ整備の老朽化した再生の事業を新しく提案したり再開発したりするなど、都会ではどんどん行われているため、新居浜市だから、また予算が無いからできないというのではなく、未来への先行

投資をしていただきたいと思う。

●近藤議員

新居浜市の未来像ということで、新たな物流、交通網の整備という湾岸道路を耐震道路へという提案があったが、現在新居浜市は、菊本沖にカーボンニュートラルポートの計画を進めているが、広域幹線道路の県道壬生川新居浜野田線については新居浜で一番交通混雑が発生する道路である。その点からいうと、現在大江、中須賀の方に湾岸道路まではいかないが海岸道路ができているため住友の新居浜工場から菊本まで湾岸道路を商工会議所など経済界と一緒になり建設業界と行政へ要望、提案していっていただければと思う。

○横井理事（新居浜建設業協同組合）

以前、荷内沖や阿島、多喜浜の方が浸水した際には、弊社も黒島の端にあり完全に取り残された会社である。今後二度と同じことが起こらないためには、防災道路と湾岸道路、防波堤を兼ねたような、今よりも高い防波堤と道路を併用したような道路を構想の中では考えている。そうすることで、能登半島地震での津波などのことが本市において少しでも緩和される上に物流の滞りがなくなることや、現在の県道壬生川新居浜野田線が混雑している状況のため、緩和されることを想定して西条市や四国中央市まで抜けることはとてもありがたいことである。新居浜からだけでも少しずつ進めていければと思っているため、よろしくお願いしたい。

●黒田議員

最後に今までのテーマや、今までになかったテーマでも構わないため、意見や要望をお願いしたい。

○徳久理事長（新居浜建設業協同組合）

13ページの防災公園の件だが、川西地区には防災公園がなく、今回能登半島地震を見ていても避難所が非常に重要であることが分かる。新居浜市では、コンパクトシティーを考えているとのことで、市役所、文化センター、市役所前の通り、川西地区の銅夢にいはまや駅前など、充実して開発することにより人が集まってくる。コンパクトに収めて経費がそんなにかからない都市にしていく中で、住友の土地のところなどをただの芝生でよいので防災公園にしてはどうかと思う。災害時には野外でトイレができたり、貯水タンクには水が貯めることができたり、バーベキュー施設を併設し炊き出しができるなどの観点で芝生公園を造っていただきたい。遊具はそんなに必要ではなく、防災に特化した公園を造ることが重要ではないかと思う。また、学校も今後統合されていくのであれば、大きい土地のところを考えながら、50年先を見据えたまちづくりに取り組んでいただけるとよいのではないかと思う。商工会議所からも提案があると思うが、都市基盤の整備をしていくのは中長期的ではなく長期的となるため、未来の子供たちのために皆さんで考えられるような勉強会等を定期的に実施していただければと思うので、よろしくお願いしたい。

〇渡邉さん（新居浜建設業協同組合事務局）

組合のＰＲとして、インスタグラムで我々の活動を掲載しているため、ぜひ周知をよろしくお願いしたい。

●田窪議員

インスタグラムの話があったが、人材不足はどの業界においても深刻な問題であるが、例えばものづくり産業である新居浜機械産業協同組合は、独自でプロモーションビデオを作成したり、ゲンバ男子だったり常々ＰＲされていることは聞く。建設業協会から説明があったような災害復興に尽力していることや、けんせつ小町である建設業界で活躍されている女性の方々をＰＲしたり、各企業で工夫したビデオを若手で作り、ケーブルテレビ等で放映したりしていただくことで、魅力の発信もできるのではと考える。中学生や高校生の職場体験を継続的に取り組まれていることは良いことだが、皆の目に付くような媒体でも取り上げれば建設業協会の認知度にもつながっていくのではないかと思うため、我々議員も協力しながら提案していきたいと思う。

【まとめ・閉会挨拶】

●黒田議員

本日の会での意見や要望については委員会で協議を重ねた後、市議会全体で共有を図り、市長へ提言することなども考えている。ただ、厳しい財政状況のため直ちに実現できるもの、そうでないものがあるかと思うが、今後の議会活動や議員活動の中で状況が少しでも改善できるように取り組んでいきたいと考えているため、どうかよろしくお願いします。

●田窪議員

本日は、新居浜建設業協同組合の皆様にお集まりいただき、このような会を開催することができた。誠にありがとうございました。ただいま会の中で事務局の方から、災害復旧についての説明や課題、要望をたくさんいただいた。我々議員として皆様の要望が一つでも形になるよう、日頃の議会活動や委員会活動などの場において、提言や要望をしていきたいと思っている。今後ともよろしくお願いします。

市民福祉委員会

日時　令和６年１月２５日（木）　１９時～２１時
場所　ゆりかごファミリークリニック

＜テーマ　こどもを育てやすいまちづくり＞

【司会】市民福祉委員長：白川　誉
【参加者】※敬称略
（市民福祉委員会）

・白川　　誉議員（委員長）
・河内　優子議員（副委員長）
・仙波　憲一議員
・藤原　雅彦議員
・小野　辰夫議員
・合田　晋一郎議員
・伊藤　義男議員
・小野　志保議員

・新谷 敏昭（新谷ウィメンズクリニック院長）
・小西 秀樹（こにしクリニック院長）
・大藤 佳子（ゆりかごファミリークリニック院長）
・神野 美佳（ここね代表）
・森本 真実（ここね保育士）
・高見 佐智恵（NPO 法人うまれてきてくれてありがとう project 事務局長）
・松本 真紀（pingpongpan 代表）
・和泉 麻実（あさみの助産院）
・尾藤 由紀（ひとびと助産師）

記録

●白川議員＜開催趣旨説明＞

新居浜市議会の市民との意見交換会を開催する。まず、今回の開催に至る経緯をお伝えさせていただく。新居浜市議会には、企画教育委員会、経済建設委員会、そして市民福祉委員会と、３つの常任委員会が設置されている。市議会議員はいずれかの常任委員会に所属しており、所管部局を中心に議会から付託された議案の審議などを行っている。私たち市民福祉委員会の所管部局は、福祉部、市民環境部、消防本部となっている。本市では、これまで政策形成に当たり、地域課題の発掘や設定のために、市民アンケートや各種団体から要望を受けるほか、市の検討した政策の方向性について意見を聴くまちづくりタウンミーティングやパブリックコメントなどを実施している。しかし、多様化する市民ニーズに対してきめ細やかに対応するには、行政だけでは限界があり、これからのまちづくりにおいて、地域の方々、様々な活動をしている団体や事業者など、多様な主体と連携しながら政策を進めていく必要がある。そうした中、市民福祉委員会では、市民と議員が一緒になって課題を抽出し、共に政策を考え、実現していく方法として新たな対話の形、にいはま共創ミーティングを企画した。これまでは大学の先生を招き、市民の皆様と議員とのトークセッション方式で行っていたが、今回は初めての試みとして具体的な政策テーマとして「こどもを育てやすいまちづくり」を設定した上で、テーマに関連する事業者や団体と議員で構成されるチームに分け、本市の財政状況を鑑みながら、実現可能な政策を一緒に考えていきたいと思う。また、一過性のものとならないよう、本日のミーティング内容については議事録を残し、後日市長へ提言を行い、継続して動いていきたいと考えているので、よろしくお願いする。

それでは、まず初めに参加者の自己紹介をお願いする。

（　参加者自己紹介　）

【子育て支援（産前・産後）メニュー３９事業の紹介】

●白川議員

議論に入る前に、現状把握を行いたいと思う。まずは本市の子育て支援（産前・産後）メニュー39 事業の紹介をお願いする。

●小野志保議員

今回の政策テーマ「こどもを育てやすいまちづくり」の議論を円滑に進めるために、まずは現状把握を皆様と一緒に行いたいと思う。お手元にお配りしている、子育て支援 39 メニューの紹介資料を見てほしい。この資料は、現在本市が実施している子育て関連の支援メニューを一覧にまとめた資料となる。子育てに関する分野ごと５つに分け、妊娠・出産への支援として 11 メニュー、子育て支援として 12 メニュー、悩み・不安の解消として７メニュー、経済的支援として５メニュー、地域・社会によ

る支援として４メニューの合計 39 メニューとなる。この全メニューにかかる予算は合計約 10 億円となっており、国や県からの交付金ではなく、新居浜市単独の予算で行う、いわゆる一般財源のみの事業は、そのうちの約７億円となっている。令和４年度の実績数も記載しているが、子育てに関する支援ニーズは多様化しており、限られた予算の中ではあるが、今必要な支援メニューはどのようなものなのかについて事業の見直しもセットで考えていく必要があると考えている。他市に比べ新居浜市は手厚いとよく言われるが、ブラッシュアップは必要だと考えている。子育て環境と近くで動かれている現場の皆様の意見も聞きながら、議論を深めていきたいと思うのでよろしくお願いする。

●白川議員

お手元の資料は、どのぐらい費用がかかっているのか、何人ぐらいが使っているのかなども記載しており、これから議論をしていく上で、参考にしてもらえればと思う。

【現状の課題】

●白川議員

次に、様々な子育てを取り巻く環境と日々関わりをもっている現場の皆様から、現状の課題や必要であると感じていることなどを共有していただきたい。

〇大藤院長（ゆりかごファミリークリニック）

コロナ禍で、お母さんと子供がいろんな人と接する機会がここ数年少なかったと思う。スマホやタブレットなどを赤ちゃんのときから使って育児をしているお母さんが増えてきた印象がある。子供たちの発達の遅れが増えてきたと日々感じている。ゆりかごのリハビリでは、運動発達がゆっくりな子供のお母さんには、少し運動をしたり、遊んだりする中で発達を促すような内容を希望する方もいると感じる。子育て広場などに出向き、そのような困り感のあるお母さんとお子さんには関わりたいという気持ちのスタッフもいるので、何かできることがあればいいと日々思っている。

また、障害児のメニューに関して、できていることもあるが、まだまだ困り感の多いことがあり、日々悩んでいる。

〇神野代表（ここね）

私も３人の子育て中だが、今困っていることとしては子供が遊ぶ場所がないと思っており、外に出ると道路があって家があって、昔みたいに走り回ったり、サッカーしたり、鬼ごっこしたりする自由に遊べる場所がなく、遊んでいても車を気にしないといけないし、ボールを蹴った先に家があったりということもあるので、子供たちがみんなで遊べる場所がない。人と人との関りが少なくなっているので、親同士の関りが少ないことで、お友達の家に行ったりという経験がない、よそのお宅に上がってどういう振る舞いをすればいいのかなど、他人との接し方を知らない子たちが多いなと思う。自分の子供だけではなく地域の子供たちが家に集まってきてくれるので、たくさんの子供を見てきたが、一人一人の生きる力がすごく弱く、大人の言っていることが正しく、自分で判断することが失敗につながるのではと思っている、大人の顔色をうかがいながら遊んでいる子供がすごく多いなと思っている。道を歩くにしても大人の姿がない所をさきさき行ってしま

う子供に対して角を曲がったら危ないとか、落ちている釘を拾って触ったら危ないとか、本当に何が危ないのか、本当に大切にしないといけない「危ない」の意味をきちんと理解していないのかなと思っており、危ないで子供の行動を制限するのであれば、きちんと理由を伝えておかないと、制限されて育った子供たちは社会に出て危ないことを判断できない子たちになっているのではないかなと思い、危機感を募らせている。そのために私は子供たちが自分の意思で生活できる保育園、遊び場を作りたいと思って活動させてもらっている。

○高見事務局長（NPO 法人うまれてきてくれてありがとう project）

実際子育てしているお母さんたちに、困り事や、こういうのがあったらいいなということについて投げかけてみると、多種多様な意見があったが、一番多いと思ったのは仕事と子育ての両立。今は仕事しながら子育てしているお母さんたちが多いと思う。その中で、子供が病気にかかったり、自分が病気にかかったりした緊急時に頼れる、安心のようなものがあればと思う。いろいろ悩みを聞いていく中で、共通して安心が欲しいということをすごく感じており、不安だからこそ、いろいろな問題や悩みが出てくるのではないか。新居浜市として子育て世帯を支えていくよみたいな感じが見受けられたら、お母さんたちの気持ちも変わってくるのではないかと思う。

○和泉助産師（あさみの助産院）

産後ケアにほとんど関わらせていただいているが、方法がアナログで、手続きに手間や時間がかかり、お母さんが本当に助けて欲しい、困っているときにリアルタイムで対応することができず、時間が開いてしまうことがある。産後のアンケートも、お母さんたちが自分で書いて投函するが、忙しい中でアンケートを書いて封筒にのりをぬって自分で投函するシステムというのも、お母さんたちからはこれどうなのという声を聞く。また、産後お母さんたちにとっては助産師の存在が安心感につながっていくのではと思う。新居浜市で開業している助産師さんたちは地域の中でお母さんたちに安心して子育てしてほしいという思いで開業しているので、市の事業に私たち助産師も関われるようにしていただきたい。

【市の財政状況】

●白川議員

次に、財政、いわゆるお金の話をしていきたいと思う。事業を行うには当然お金がかかるため、実現可能な政策の議論を進めるためにも、今の本市の財政状況を共有したい。説明をお願いする。

●藤原議員

先ほど小野議員から説明した子育て支援の予算は全部本市の一般財源から出ているため、まずは財政のことの話をさせていただきたいと思う。

まず、お手元に配付の資料は、令和５年９月の市政だよりからのものとなっている。本市は年間約 500 億円の予算で運営しているが、形式収支、実質収支とも黒字となっている。収支ですから収入から支出を引いて約 10 億円の黒字ということになっている。しかし、財政調整基金、いわゆる一般家庭における貯金が、平成 29 年には約 40 億円程度あったが、令和４年度では約 14 億円、令和５年 12 月時点では約１

億 3,000 万円と大幅に減少している。つまり、貯金を取り崩しながら市の運営をしているのが現状である。この財政調整基金、近隣市である西条市と四国中央市は、両市とも約 60 億円、それに対し本市は、1 億 3000 万円、明らかに少ないことがわかると思う。その原因としては、ありがたい制度ではあるが、高校生等までの医療費の無償化や、特定不妊治療に対する助成の継続など、手厚い福祉サービスを提供していることや、企業立地や中小企業に対し、他市にない手厚い奨励金を補助するなど、積極的な産業振興施策を行っていること、小中学校のタブレット等のＩＣＴ環境整備に、毎年約３億円かかったことや、大型事業である市役所西側の総合防災拠点の建設事業費、また、本市の借金、市債の返還のお金等もろもろのやりくりをしている現状がある。それでは新居浜市は危ないのか。例えて言うならば、入ってくるお金、1 か月間働いた給料の中では毎日の生活はできる。問題は貯金がないからどうするか、貯金がなかったらどうなるかと言うと、欲しいものも買えない。これが本市の現状である。心配することはないが、心配しなくてはならないということである。財政調整基金の目安は、先ほどの本市の予算、約 500 億円の一般財源の大体 10%前後で、本市では 50 億円程度あればある程度のことができる。つまり四国中央市、西条市などは 60 億円で、ほぼ目安に沿っている状態である。

財政調整基金がないと何が困るかというと、市独自の政策ができない。また、災害時の対応ができない。私は議員になって 20 年が経つが、平成 16 年に大水害があった。その時は財政調整基金が 40 億円あったが、災害のため、入札をする時間がないこともあり、二、三週間でその 40 億円が 20 億円まで減った。それから当時の市長がいろいろな努力をして、平成 29 年には約 40 億円まで回復した。今は 1 億 3,000 万円。不安を煽るわけではないが、行政の仕事である市民の生命と財産を守ることに関してはお金がないからできないということはあってはならないため、バランスを考えながら政策を考えていきたい。

【ミーティングの進め方の説明、班分け】

●白川議員

お金のことは継続して話をするためには避けては通れないという思いもあった。本市の財政は指標的なものは他市と比べれば県内でもよく、借金は少ないが貯金も少ないという現状である。これまでお話いただいた現状を含めてミーティングを進めていきたいと思う。進め方の説明をお願いする。

●河内議員

本日参加いただいている皆様と市民福祉委員会の議員が混在したチームを３班に分けてワークショップ形式で「こどもを育てやすいまちづくり」についての政策を考えていきたい。本市のこどもを育てやすいまちづくりに必要なことについて、班ごとに意見を出し合いながら政策に落とし込んでいく。支援メニューでも、体制づくりでも、改善案でも、それぞれが感じていることを話してもらえればと思う。その内容については、各班の筆記担当者が付箋紙にキーワードを書き、配付している用紙に貼り付けるようお願いする。各班のリーダーは出てきた意見などについて議論を進

めながら、その中から優先順位を決め、1つの政策提言を選ぶようお願いする。最後は各班の発表者から全員に向けて議論内容と政策提言を発表するようお願いする。班分けと各班のリーダー、筆記、発表者は全てくじ引できめさせてもらうが、リーダーと筆記は議員から、発表者は参加者から決めさせてもらうので、よろしくお願いする。

（　くじ引、班分け　）

【共創ミーティング】

●白川議員

それでは各班に分かれて始めたいと思う。約30分間お願いする。

（　班に分かれてミーティング　）

《各班で出された意見、キーワード》

〔Ａ班〕

・地域で子育てもっとＰＲを
・子育ての軸を地域で
・潜在保育士、人員確保
・お母さん安心感、産後ケア無料チケット
・事前登録してほしい、産後ケアタイミングおそい、全妊婦
・産後健診の聞き方、大丈夫じゃない、マニュアル変更
・産後ケア、産前から
・産後ケア助産師さんも市と一緒に提案
・お母さん、リクエストタイミング、事前登録！
・サービスを知らない
・オンライン、拠点まで行かなくても
・キャッチフレーズ聞き方、マニュアル
・不妊治療20代の人増、43歳以上保険効かない→43歳以上も補助
・宿泊型（１か月）充実

〔Ｂ班〕

・市議会⇔民間子育て団体⇔ママパパ
・人とのつながり
・民間と行政がつながる
・コミュニティー
・点と点をつなげる
・支援のスピード
・行政のスピード感
・市の発信力
・安心感
・困りごとを怒りにしない
・大人の意識を変える
・お母さんが自分を大切に
・お母さんの幸せ
・子供の幸せ

〔Ｃ班〕

○男性支援、社会環境整備

・男性が子育てしやすい環境整備、社会認識
・社会の理解
・生活を補助、派遣できるパート
・手伝うではなく協力！！主体的に
・男性の子育て
・企業内保育所
・シルバーさんたちに保育のサポートを
・女性の職場ではなく、男性の職場でもいいのでは
・国民５割が生活が苦しいと伺っている。給与アップが必要
・職場の子育て理解
・将来大学まで無償化が必要では
・介護職員は給与が安いので結婚できないのでアップが必要

○地域

・地域コミュニティー
・地域の見守り
・障害児を育てる親に寄り添う市民を増やす
〇医療児ケア
・医療的ケア児への対応、学校の受入れについて、ガイドラインを作ってほしい
〇保育士、教員の質の向上
・特別支援学校（県立）の質の向上
・保育士のスキルアップ
・学校の支援員の増員
・特別支援学校の先生の質、学級経営できない人が特支担任になる傾向にある
〇教員支援
・教員のさらなる改革が必要
〇不登校
・あすなろ学級以外での不登校児の居場所
・不登校、まずは居場所、どんな状況、環境にでも学べる環境をもっと整える
〇性教育
・もっと踏み込んだ性教育を！妊娠して起こる身体と心の変化や負担を小さいうちから知っておくと、特に男の子
・１つ前のステージへの支援を！不妊治療や妊娠に向けては思春期から、産後は妊娠中からなど
・生理の話を男女で聞く市教育委員会独自のカリキュラムで！
〇保育士の環境
・保育士の書類、負担減
・加配保育士の点数制ではなく充実した加配保育士の配置
・保育士の人数配置、１、２歳児の６人に１人の配置を、３～４人に１人に
〇給食
・学校給食のアレルギー対応
・給食　無料？　質？
〇保健センター
・保健センターに水先案内人的なことをしてもらう
・保健センターのハードルが高い！
・保健センターと保育園と幼稚園との連携、情報共有
〇相談場所
・チーム作り
・相談場所がほしい
・子供への接し方を教える場があればいい
・離乳食の進め方、食べさせ方を教える場
〇産後ケア
・産後１か月健診後の受け皿を！
・産後ケアを特別なものではなくもっとハードルを下げて全員当たり前に！

【各班発表】
●白川議員
　それでは各班の発表に移りたいと思う。Ｂ班からお願いする。
〇松本代表（pingpongpan）
　Ｂ班では、子育ての中で一番必要なものは何ですかという議題の中で、皆から出たのがコミュニティーだった。子育てをする上でもコミュニティーがやはり大事で、場所も大事、時間も大事、人も大事。それではそれはどのように作ったらいいのか。コミュニティーを作るっていうことはどういうことに対して、なぜコミュニティーが必要なのかというと、子育て世代のお母さんたちに安心感が必要だから。安心感というのは、子育てをここでやっていいんだ、ここでしたいと思ってもらえるような安

心感にする。そのような場所づくりを新居浜市もしていると思うし、民間もしているが、今はまだそれがうまく繋がってないのではないかという議題があった。

それに対して、もう一つは、速さがないこと。産後、赤ちゃんが生まれて１週間の一番しんどく、辛くなったときに、どこに行ったらいいのかがわからない。我慢するのが当たり前かもしれない。誰も助けてくれないっていうことを味わって、そういう孤独さを感じた人が、子育てをしていくと子供を外に出したがらない、人を頼らない、そういう負のループに入っていくのではないか。

しかし、協力したい人がたくさんいる。それが点と点になっているが、それがつながって線になる、人とのつながりをつくることにより、支援のスピードが速くなるのではないか。民間の私たちは思いなどの形のないものを大切にしている。一方で行政は予算を使って形あるものをつくる力がある。そこをうまく融合させて、それをお母さんたちにこういうことをしているということを知ってもらうための発信力をつける。その発信力が行政にまだ足りていないのではと思う。どうやって発信すればいいのかという課題は、私たちのように直接つながっている人たちがここ大丈夫だよ、声聞いてくれるよということを直接お母さんたちに伝えられる。市議会議員さんがいますが、お母さんたちお父さんたちが直接助けてくださいとなかなか言う時間も余裕もない。だからここに関わっている私たち民間が、声を聞いて、それを伝えるこの間の潤滑油になれるのではなかろうかと思う。そういうのが点と点がつながっていろんなあそこにもあんな人がいるよ、こんな人がいるよみたいなことが伝わっていけば、最終的にはお母さんたちの安心感ができて、そういう困り事が怒りにならずに解決、解消できるような新居浜市になるのではないかという話をした。

お母さんが自分を大切にすることで、子供が、そんなお母さんを見て幸せを感じ、子供たちが同じことを、次の子供たちにつなげていってくれるという、そういうループになったらいいなという話をＢ班で行った。

●白川議員

続いてＣ班お願いする。

○大藤院長（ゆりかごファミリークリニック）

一番は子育て環境をどうすればいいかということで、お母さんたちの支援ということがあるが、男性を支援してお父さんたちに一緒に子育てしてもらう、手伝うというスタンスではなく、一緒にやるものだという認識をまず持ってもらう。そのためには、例えば職場から変えていこうであるとか、社会環境としてそういうことを意識づけする整備も必要ということがある。それにもつながるが、地域づくりや相談できる場所が必要ということ。地域の見守りが、

希薄になってきているところがあるが、コミュニティーづくりと言っても、若いお母さんたちがどこに何を発信したら、地域づくりなのかなどが分からないので、プラットフォームのような相談場所やチームとしていろんな専門職であるとかいろいろな知識を持っている人、ここに行ったらこういうことが相談できるということを知っている人たちが方向づけをしてあげることが必要かという話が出ていた。

また、特別支援の先生たちや保育士さんたちは大変だが、教員支援や保育士さんの質の向上のために、研修の場や、先生たちを支援する中で、きちんと働きたいというような場所などを整備していかないと、疲弊しているため、仕事を辞めてしまう人も増えているのではないかという話も出た。

また、不登校の子が増えているが、そういう子たちの居場所を市内でもっと増やし、民間の不登校支援が増えているが、それを知らないため、つなげられていないということも日々感じる。愛媛県内でこれから活動していこうとしている不登校支援の団体もあるため、立ち上がった際にはまた御案内したい。

また、給食センターが新しくなる中での問題として、アレルギーへの細かな対応ができなくなるということがある。例えば小児科の外来で卵が食べられなければ、加熱は大丈夫だけれど生は駄目だというような細かい指示書を書くが、そういう指示書は書いても使えない、食べられるか食べられないかだけで対応するという通達が来ている。その方向では不便ではと思うが、一般家庭には通達が届いていないかもしれないが、医療機関には届いており、公になるともう少し問題になるかもしれないと思う。

また、産まれたときにどこに相談したらいいのかということについて、産まれてから１、２か月くらいの赤ちゃんが小児科につながるのは、生後２か月の予防接種から来ることが多いので、それまでの空白期間にどこに行ったらいいのかが分からないことが問題となっている。他市では妊娠中にこういうことに困ったら産後ケアの助産師さんに相談すればいいことのお知らせや、妊娠中から地域の子育て支援につないでおき、相談できる場所を確保するということを行っている所もある。産後ケアだけではなくそういう部分を分かりやすくすればいいという話もあった。

また、保健センターのハードルが高いと言われており、民間でプラットフォームとなるような気軽に相談できる場所があればいいと思う。

あとは、障害児や医療的ケア児が地域の中にこれだけいるということを知ってもらうような機会があればいいと思う。地域の中でこういう子たちがいるけど皆同じ新居浜の子供たちだという感覚で関わってくれるといいと思う。

●白川議員

続いてＡ班お願いする。

○小西院長（こにしクリニック）

私が不妊治療していることから、感じていることとして、保険診療になったことやいろいろな不妊治療への支援がかなり充実してきた。２年以上前は、30 代半ばくらいで切羽詰まって、病院に不妊治療に来る人が多かったが、ここ最近は 20 代の方が来るようになった。おそらくこのような支援のおかげで環境が良くなり、受診しやすい環境になったのだと思う。

ただ、これはちょっとどうにかならないのかなと思うことがある。43 歳以上が保険診療から外れてしまい、補助や制度がなかなかない。医学的に妊娠率だけの統計を取ると、うまくいく可能性は低いが、43 歳、44 歳でも治療が上手くいって、出産できる方もいるので、なかなか難しいと思うが、この辺の支援が何か少しでもあればいいなと個人的に思う。

また、子育てに関してはＢ班、Ｃ班と同じような意見がたくさん出た。まず、産後ケアや、様々な支援に関しての情報が妊婦さんや子育てするお母さんなどに十分行き届いていない可能性が高いのではないかということで、産後ケアなどを利用している方は多いと思うが、産後ケアを利用している方は、外に出て相談できる、アクティブな方が多く、実際は家で子育てに悩んでおり、なかなか表に出られない人もいるため、妊娠中、産後にしっかりとしたインフォメーションをして、支援等が利用できる環境があればいいということで、どのように持っていったらいいのかという意見がたくさん出た。

あとは、助産師さんや、保健師さんなどで潜在的な、現在は仕事をしていない人もいると思うため、そういう人が働ける環境について。特に産後ケアや、私の所も宿泊型をしているが、産まれて３か月の赤ちゃんをずっと見るためには、スタッフを１人分確保しないといけないため、民間の業者でそれをやろうと思うと、それが経営的に成り立つコストが確保できればいいが、これも問題なのかなとの話も出た。

【感想】

●白川議員

今回は初めてで限られた時間のため、もっと言いたいこと深掘りしたいことなどについては、このような場をつくり、皆さんと一緒に考えていけたらと思う。先ほどの発表の中身や、本日参加した感想でも何でも結構であるので、１人ずつ、お話いただいて、会を閉めたいと思う。

○和泉助産師（あさみの助産院）

出た意見についてきちんと形にしたい、自分もそこに参加していきたいと思っているため、このような話合いを継続してほしいと思う。

○神野代表（ここね）

皆さんが子育てについて一生懸命考えてくれているということを実感できてうれしかった。やはりコミュニティー、人と人とのつながりをいかに大事にしていく

かということを地域全体で考えていかないといけないと強く思ったため、私もこれからできることを少しずつ、足を止めずに進んでいきたいと思った。

●小野志保議員

本日は貴重な機会だったと思う。現場の声が一番で、どのような裏付けがあり、実際どのようなことがあるのかということを、現場の皆さんとお話できたのはよかった。また、新たな課題が見えてきたため、今後とも取り組んでいきたいと思う。

●河内議員

現場で一生懸命働いている現場の方の話を聞いて、気がつかなかったこと、分からなかったことをたくさん教えてもらった。市議会を通してその声を訴えさせてもらいたい。

○小西院長（こにしクリニック）

たくさんのことを考えてがんばっている方がいると知った。私もがんばりたいと思う。

●合田議員

ミーティングの中でいろいろな気づきがあり、課題を聞くことができた。つながりやチームというものが大事で、このような場で聞こえてくることが大事なのかなと思う。今まで関心がなかったが、いろいろ聞こえてくる。そういった形での取組、幅広いつながりを大事にして取り組んでいきたいと思う。

○大藤院長（ゆりかごファミリークリニック）

今日は新居浜にいろいろな方がおり、顔を合わせることができてよかったと思う。私もクリニックでいろいろな障害者に関わるが、これから様々なイベントを行うことを考えており、直近では２月２４日（土）の午後からプペルバスに来てもらうことになった。東田保育園の園児やゆりかごファミリークリニックに関係のある、病気や障害を持つ子供に最初に参加してもらうが、夕方から夜にかけてはプロジェクションマッピングを含めてプペルバスにゆりかごファミリークリニックに停まってもらう予定で、チラシ等が完成したら案内させていただく。また、産後ケアについて、全国への普及を進めている団体から、愛媛県内では秋頃にイベントをしたいということを聞いており、新居浜に来てもらう機会があれば、皆さんが関わっている団体の方にも参加してもらえればいいと思う。タイムリーな話だったのでお伝えさせていただいた。

○森本保育士（ここね）

子育てしながら日々悩むが、同じ熱い思いを持つ人たちがいることを知れたのが心強い。ここから広めて子育てで孤独になっている親を一人でも減らして温かい地域づくりができればいいと思う。保育士として、どんな子供も発達の保障ができる地域づくりをしてほしいと思う。

●小野辰夫議員

この意見を吸い上げ、市政に反映することが我々議員の役割、義務だと思っている。一つでも二つでも実行していきたいと考えている。

○松本代表（pingpongpan）

このような場所が得意なわけではなく、お声がけしてもらい、ドキドキしたが、こういう場所があるんだ、すごくいいなと思った。おそらくお母さんたちも声を上げたいけれども、このようなドキドキを持って

いるのではないかと思うため、私たち民間の人間や行政の方たちがそういう窓口を広げ、お母さんたちの声、子供たちの声を吸い上げていけるような、そんな市になればいいと思う。何かできることがあればと思う。

○高見事務局長（NPO法人うまれてきてくれてありがとうproject）

市議会議員さんたちと話をするということで、私もきちんと話さないといけないという気持ちだったが、こんなにざっくばらんにお話できるとは思わず、とても楽しかった。議員さんとは距離があるという話をしたが、子育て中のお母さんたちがこういうことをしたいと声を上げるのは難しいと思うため、私たちのような団体などの話しやすい人たちが間に立って皆の意見を吸い上げて届けるという役割をこれからしていけたらいいと思う。

○尾藤助産師（ひとびと助産師）

同じくハードルがあるように思っていたため、間に立ってつなげられるような存在になっていけたらと思う。自身も何かを変えたい、こうしたいというときは上に上に持っていかなければいけないと思うが、市議会議員の皆さんに会えることは中々ないが、皆さんが同じところを見てくれるというのはすごくありがたいため、自分自身も興味を持たないといけないと思った。

●藤原議員

市民との意見交換会は年一回常任委員会ごとに開催しており、今まで私も参加してきたが、今回は本当の意味での市民との意見交換会だったと思う。今後もこのような形でやっていきたい。こどもを育てやすいまちづくりということで、子供の幸せを考えてきたが、話合いの中で、お母さんが幸せじゃないと子供も幸せになれないという、根本的に大事なことを教わった。

●伊藤議員

議会は二元代表制が採られており、私たち市議会議員は皆さんの声を市政に反映していくのが仕事。こういう場を通して皆さんの意見が私たちに流れてくるというのと、市議会議員をもっと身近に感じてもらい、もっともっと市議会議員を使ってもらい、皆さんの意見をどんどん市政に反映していけたらと思う。班の話合いでは、コミュニティーが大事という話もあり、市議会議員は地域から選ばれているため、地域のコミュニティーを作っていく立場もあるため、今後がんばって地域のコミュニティーを作っていきたいと思う。

【総括】

●仙波議員

本日はこどもを育てやすいまちづくりということで皆さんとお話させていただいたが、結論から言うと、大人を育てた方がいいのかなという感覚を持った。行政もいろいろな政策を出しているが、それが実際に伝わっていないとういう話を今日お伺いし、どういうふうに政策を作るかということに対して、市議会として現場の声がどうすれば反映できるのかということを、今日は本当にいい勉強させていただいた。先ほど小西先生から費用対効果という話があったが、そういうことも含めて、最初に皆さんに申し上げたように、お金の話をしたが、最初からお金の話をすると自由な意見が出ないため、そういう話は後にしましょう、それぞれ言いたいことを言ってくださいというような形で話をさせてもら

い、大変勉強になった。私もおじいちゃんで、普段は小中学生と関わっているが、その中で感じることは、そんなことみんな知らないんだなということがあり、そういう意味では本当にいい気づきができて、皆さんとお会いできたことに感謝している。

【閉会挨拶】

●白川議員

本日は２時間あっという間だったが、初めての試みのため、最初は正直不安だったが、班ごとに違う切口で意見を言っていただきながら話をして、すごく意義のあるものだったと思う。議員と市民の皆様がこれだけ本気で考えているからこそ、こういった場ができたと思うため、改めてお礼を申し上げたい。冒頭お話したとおり、こういうのはやったら終わりになりがちだが、最初にお約束したように、今日のことをまとめて、それを提言書として市長に提出したいと思う。その結果も含め、今後どうなっていくのかといったことも皆さんにフィードバックしながら、このような形でよければ、定期的に企画していきたいと思う。

最後に今日の各班の発表を一つにまとめさせてもらうとするならば、皆が行政に頼るだけではなく、民間でないと分からない感性があり、民間が主導となって、あとから行政が補完していくような流れを作っていく、そのためには行政の仕組みが分かったうえで行政もしっかり民間の声を聞く、そのために我々市議会議員がいるのではないかなということを改めて勉強させていただいた。これからも皆さんと一緒に新居浜市を盛り上げていきたいと思うため、今日はキックオフということで、これからも引き続きよろしくお願いしたい。

以上で市民との意見交換会、共創ミーティングを終了したい。

企画教育委員会

日時　令和６年２月１日（木）　１６時～１７時
場所　愛媛県立新居浜東高等学校

＜テーマ　帰りたいまち、住みたいまちにいはま＞

【司会】企画教育委員長：伊藤　嘉秀
【参加者】※敬称略

（企画教育委員会）
・伊藤　嘉秀議員（委員長）
・藤田　誠一議員（副委員長）
・伊藤　優子議員
・伊藤　謙司議員
・高塚　広義議員
・山本　健十郎議員
・神野　恭多議員
・井谷　幸恵議員
・野田　明里議員

（愛媛県立新居浜東高等学校）
・永森　瑠　（生徒会長）
・荒井　斗亜（生徒会副会長）
・鎌田　歩　（２年）
・片岡　千春（２年）
・浅木　慶吾（２年）
・小野　泰嗣（２年）
・秦　　友輝（２年）
・河合　紗希（１年）
・尾崎　杏里（１年）

記録

●伊藤嘉秀議員＜委員長主旨説明＞

今回のテーマとして「帰りたいまち、住みたいまちにいはま」を選んだ理由は、全国的に人口減少、少子高齢化が進んでいるが、新居浜市においてもその傾向が顕著であり、大きな課題となっているためである。これから地域力が弱まることが心配されているが、新居浜市の経済力を支えている住友グループや下請けである中小企業では働き手不足や人材不足が深刻な課題となっている。新居浜市では、高校卒業後、就職を希望する人にはぜひ新居浜に就職してほしい、市外、県外に進学する人には就職時には新居浜に帰ってきてほしいということで、いろいろな施策を展開している。そういう中で、これから進学や就職をする皆さんに具体的にどういう町であれば帰ってきたい、住みたい町であるか、新居浜に足りないところなどをぜひ聞かせていただきたい。

皆さんには事前にアンケートに答えてもらい、多くの意見をいただいたが、それらを「まちのインフラ整備や公共施設の充実について」、「みんなが集える施設、遊ぶ場がほしい」、「生活空間の改善」の３つのテーマに分類した。この３つのテーマについて順番に意見をいただき、市議会議員からも意見をいただきたい。

【１　まちのインフラ整備や公共施設の充実について】

●伊藤嘉秀議員

まず、まちのインフラ整備や公共施設の充実についてには３つの意見があった。まず、永森さんに道路の意見についてお願いする。

〇永森さん（生徒会長）

道路の整備について、新居浜駅前などは道路が整備されていて通りやすいと感じるが、少し郊外になると、道路の整備がされていないところや、路面が荒れているところなどがあり、自転車で通るときに転倒しそうになるなど危ない箇所があると感じる。そういうところに対してどういう対策や対応をしているのかを尋ねたい。

●伊藤謙司議員

今後、車を運転するようになれば道路が大切であるということはもっと実感すると思う。自転車で通るところも大事であるが、車道と歩道の整備を市として進めてはいるが、市内の道路はたくさんあり、古くなったところから補修を行っている。市の道路課職員も業務として道路状況を見回り、補修している。また、市民から補修が必要な場所があるとの声があれば、議員らも聞いて担当部局に話を持って行っている。そういう箇所を見つけた場合は、市役所に言うのが難しければ自治会などを通して伝えてもらえれば、道の整備ももっと進んでいくと思う。

●伊藤嘉秀議員

道路の危険箇所を修繕することも大切であると思うが、国道やバイパスなど大きな道路を作ることのメリット、デメリットについての質問もあったと思うが。

○永森さん（生徒会長）

新しい道路を作るということと、今ある道をきれいにすることではどちらの方が優先順位が高いのかということは、個人的に気になる。

●伊藤優子議員

大きな道路も作っていかなければならないし、古くなった道路の補修も必要である。優先順位というのではなく、計画して市として進めていく必要がある。皆さんが見て穴が開いている所や危ないと思う所があれば、ＬＩＮＥで写真を撮って送ってもらえれば、市が確認して補修するような制度もある。そういったものも利用してもらいたい。

●伊藤嘉秀議員

私の経験では、救急車が高規格になりだんだん大きくなっており、古い道路であると救急車が通れないところもあり、救出に行けず、途中から担架などで行かざるを得ない場所もある。そういったことがないように大きな道路の整備が必要になってくると思う。永森さんからはもう一つ意見をいただいているが。

○永森さん（生徒会長）

新居浜市でサッカーをする場所といえば、河川敷のコートやグリーンフィールドを使うこととなる。休日や昼間であれば使用できるが、夜間に使うことができる施設は限られていると思う。フットサルコートであれば、きらきら公園などを予約すれば使用できるが、サッカーをする場合に夜間照明がある施設は限られている。また、更衣スペースは簡易的なもので、遠方からチームを呼んで試合をする場合に、申し訳なく、もっと良い設備であればいいと思うので、増設などをしてほしい。

●神野議員

私もグリーンフィールドをよく使うが、ナイター設備がほしいという声は非常に多い。ただ、面白くない答えにはなるが、グリーンフィールドは最終処分場跡地を利用して建設しているため、グラウンドの地中には現在も埋められたごみが存在している。建設時から安全に使用できるようにガス発生量の調査を行っている。ガスの発生量も減少しているため、安定してごみの分解が進んでいる。ナイター設備設置のためにグラウンドを掘削すると、ごみの分解を早め、地盤沈下が起こったり、ガス発生量が増加したりする可能性がある。しかし、実際にそういった声がたくさんあり、あんなに良いグラウンドの設備があるため、ガスを発生しないようにする方法や、どれぐらいのリスクがあるのかということを、もっと深く調べて、前向きに作れるように我々が声をあげたり、高校生が声を上げたりしてくれることが非常に大事だと思う。先ほどきらきら公園の話もあったが、きらきら公園はかなり倍率も高く予約しづらいので、グリーンフィールドの下にあるアップ場にナイター施設を付けて、フットサル場として夜間開放できたらと考

えてはいるものの、まだ前には進められていない。頑張ります。更衣室については声を上げていきたいと思う。

○永森さん（生徒会長）

河川敷を練習試合などで使うことがあるが、トイレとかをもう少しきれいにしてもらえれば、使いやすいと思う。

●神野議員

これも面白くない答えになってしまうが、循環型のトイレを置いていると思う。河川敷も河川であるため、固定物を置くことができない。何かあった場合は吊ってすぐに移動できるように考えられたもので、河川敷のトイレにしてはきれいなほうだと思う。しかし、もう少しトイレの環境整備をしてほしいという声もよく耳にする。これも声を上げてもらわなければならないため、皆さんが思ったことはどんどん声を上げ続けてほしい。

○浅木さん（２年）

グリーンフィールドの下の場所をフットサル場にしたいという意見があったが、そこに行くまでがかなりの坂道で、夜間に帰るときに危ないと感じるので、電灯やカーブミラーなどをつけてもらいたい。学生が使う際に事故も起きにくくなると思うし、安全の面でも街灯とカーブミラーがあったほうがよいと思う。

●山本議員

サッカー場に行く道中の安全対策をという意見について、今日の話を受けて、議員らは早速取り組むと思う。今、総合運動公園を整備しようと行動している。サッカー場や東雲の陸上競技場にナイター設備をという声があるが、総合運動公園をやるのだからという葛藤がある。そういった声は皆さんから出してもらって、考えていることは議会でも進めていっている。私は７、８年でできると思っていたが、市民文化センターの建て替えもあり、その影響もあり総合運動公園はおそらく 14～15 年先になってしまうと思うが、我々も頑張っているので、そういった取組をしていきたい。

●伊藤嘉秀議員

グリーンフィールドができて、なでしこジャパンも練習に来てくれて新居浜はサッカーで有名になったところもあると思う。総合運動公園の計画を基にもっといいグラウンドができればと進めているので、また、皆さんの声も聴かせてもらいたい。

○永森さん（生徒会長）

私はサッカーをしていたので、サッカー場が大事というのもあるが、個人的には大人が集まるということになれば、休日を除けば仕事終わりになるので夜間になってしまうと思う。例えば昔サッカーをしていた小学生同士や親同士が一緒に集まってサッカーをする、運動をするといったつながりができる場所が大事だと思うので、サッカーだけではなく、室内のスポーツでもよいので夜間に集まれる施設を増やすことも考えてもらえればと思う。

●伊藤嘉秀議員

今の意見はこれから大学を出て帰ってきて社会人になってからのことになると思うが、良い意見だと思う。

●伊藤優子議員

学校を今、皆さん使っていると思うが、そういったところを整備して学校のグラウンドを使うようにすることはどうか。

●伊藤嘉秀議員

小中学校のグラウンドをということか。

●伊藤優子議員

高校も使えるのでは。

（高校は使用できないとの声あり）

●伊藤嘉秀議員

仕事が終わった後などに集まれるグラウンドということである。もう一つ、インフラ整備ということでいうと、大きな課題がある。小野さん、新幹線をという意見をいただいていたが。

○小野さん（２年）

四国には新幹線が通っておらず、本州などと違い交通の便が悪く、わざわざ本州から来るメリットが少ないのではないかと思う。四国に新幹線が開通すれば、来やすくもなる。四国にはいろんな特産品などもあるが、銅山という日本の発展に貢献してきたものもあり、文化的な面からしても愛媛県は重要だと思うし、愛媛県を知ってもらえる機会が増えるのではないかと思う。

●伊藤嘉秀議員

北陸とかの新幹線も開通し、観光ブームになっているが、新居浜市も長い間運動している。

●高塚議員

私も思うが、新幹線は夢である。経済的にも観光客にも来てもらえるし、愛媛のＰＲにもなると思う。今、新居浜出身で新幹線を作った十河さんという人が注目されており、新居浜市と西条市で新幹線を作った男、十河信二物語をＮＨＫの朝ドラに誘致したいと手を挙げて署名活動をしている。朝ドラになれば、高知の牧野さんのように注目度も上がる。十河信二さんは我々の誇りでもあり、私と同じ中萩出身ということもあり思い入れもある。朝ドラに誘致し、一つの起爆剤として四国に新幹線ということで経済的にも盛り上がると思う。署名活動も続けており、さまざまなイベントも行っており、継続的な取組となっている。新幹線を作った人を地域の誇りとして皆さんにも協力してもらいたい。

●伊藤嘉秀議員

十河信二さんは 1964 年の東京オリンピックに間に合わせようと東海道新幹線を作った国鉄総裁である。その朝ドラをしたいと運動している。新幹線については期成同盟会も作っている。

●山本議員

高塚さんも私も中萩校区です。中萩校区の西之端交差点近くの旧国道の所に十河信二さん生誕地という看板がある。十河さんは西条の尋常中学校に進学したこともあり、西条市の市長をしていた。私は四国が一番遅れている理由は、和歌山から大分までの国土軸構想というのがあって、それを四国が進めていっていた。その構想が休眠状態となったこともあり、遅れている。徳島県は和歌山県から徳島を通って大分まで行く新幹線を走らせたいと思っていたのだと思うが、先日、徳島県知事が一緒にやろうということで、新幹線の誘致をすることを新聞で見た人もいると思う。今から巻き返しをして進めているので、高塚さんも言われたが、中萩校区は十河信二さんを生み出した校区であるので、そういった意味も含めて誘致活動を行っていきたい。

●井谷議員

四国新幹線は夢があるが、新居浜駅の駅長さんなどから話を聞いた。確かに松山から大阪まで 1.5 時間で行けるということもあり、四国にも新幹線を作ってほしいと国に陳情されているということであっ

た。一方で作るには莫大なお金がかかり、作るだけではなく維持していくのにもたくさんのお金がかかる。作ったはいいが客が少なければ成り立っていかない。また、今は防災など他にお金を使わなければならないのではといった声や、在来線との関係もあり、課題がたくさんあるとの話であった。四国新幹線は夢であり、もっとみんなが豊かになって人口が増えて誰でも新幹線に乗れるようになれば良いとは思うが、今は他にお金を使うべきところがたくさんあるというのが私の意見ではある。そういう社会であればよいと思う。

●神野議員

私は高校生から新幹線が欲しいという声が聞けたのがうれしかった。というのも、井谷さんが言うようにハードルが高く、お金のこともあり、要らないという人も四国には多い。それが足かせになっている部分もある。ただ、北海道に新幹線が通ったが、そこには新居浜の人が払った税金もそこに入っている。北海道にできたのに四国にできない理由はないと思うし、大阪まで1.5時間、東京まで3時間と時間の短縮ができることで四国が生まれ変わると私は思っている。中国人観光客がかなり来ているというイメージがあると思うが、その中で愛媛に来ているのは 0.1～0.2%である。なぜかというと、飛行機も松山空港からの直通便がなく、アクセスが悪いということもあり、こういった一つ一つが遅れているというところがある。悲観的にならず、要るものは要ると言ってもらいたいと思う。

●伊藤嘉秀議員

皆さんがこれから一番使う世代になるので、ぜひ声も上げてもらいたい。一つ目のテーマはこれで終わらせてもらう。

【2 みんなが集える施設、遊ぶ場がほしい】

●伊藤嘉秀議員

次のテーマ「みんなが集える施設、遊ぶ場がほしい」には5人から7つの意見を出してもらっている。これは若い人の正直な気持ちだと思う。これについて話をさせていただく。荒井さんには3つの意見を出してもらった。

○荒井さん（生徒会副会長）

まず一つ目は、新居浜にテーマパークを作ってほしい。例えば、屋内でスポーツができるものや遊園地、水族館など、家族でも子供たちだけでも老若男女問わず楽しめる施設を作ってほしい。理由は、テーマパークを作ることでその地域のイメージアップや、その地域のシンボルとなり地域の活性化につながると考える。周りの人に聞いたところ、遊ぶ施設がほしい、遊ぶ場所に困っているとの声が多かった。現状では学生がテーマパークに行くとなれば、交通機関を使って遠くに行かなくてはならない。新居浜にテーマパークができれば、地元の人も行くし、観光客の増加、就職や進学で外に出た人が帰省時に遊ぶこともできるなど、多くの利点があると思う。

●伊藤嘉秀議員

これについては若い人の正直な気持ちだと思う。

●伊藤優子議員

遊ぶ場所というのは室内が良いのか室外で遊ぶ場所がほしいのかお聞きしたい。

○荒井さん（生徒会副会長）

新居浜市は公園が充実していると思うが、屋内で遊ぶ場所があればうれしいと

思う。

●伊藤謙司議員

遊ぶ場所というのはディズニーランドとかユニバーサルスタジオのようなものがほしいのか、どういったものがほしいのか教えてほしい。

○荒井さん（生徒会副会長）

率直に言えばそういうものが欲しいが、非日常的な気分が味わえるものがほしい。

●野田議員

私自身京都によく行くが、古い施設であるが府立植物園がある。古いが広大な敷地で、近所の人が犬の散歩をしたり、ランニングしたり、若い人がデートしたり、小学生が社会科見学で来たりしている。すてきだなと思った点は、入り口にイタリアンレストランがあり、バスケットにドリンクとサラダ、ポテト、パスタ、レジャーシートなどが入っており、園内の好きなところで食べられるようになっている。園内にはいろいろな樹木があり、東南アジアっぽいところやヨーロッパっぽいところなどがあるが、カップルがそのバスケットをもって好きなところでレジャーシートを広げて楽しんでいる。それだけではあるが、素敵なデートだと思った。ディズニーなどは難しいが、新居浜でもそういったものであればできると思う。新居浜は自然豊かなところであるので、あとはカフェやお店、キッチンカーでもよいので、食べ物や飲み物をもって、レジャーシートを敷いて過ごすだけでも楽しいのかなと思った。環境はあるので、あともうひとひねりのアイデアがあればそういったことができると思う。そういったアイデアは大人よりも中学生や高校生の方がワクワクすることを見つけ出すのが上手だと思うので、そういうことを教えてもらいたい。場所も大事で必要だとは思うが、場所よりも誰と楽しむのかが大事だと思うので、新居浜の良さを生かしたあとひとひねりのアイデアがもらえるとうれしい。

●伊藤嘉秀議員

荒井さんだけでなく、たくさんの人がこういった意見を出されている。浅木さんはどうですか。

○浅木さん（２年）

私は、老若男女が楽しめる施設をと提案した。どうすれば老若男女が楽しめるかを考えると、お出かけしたときに出てくるマイナスの感情をなくしたい。例えば、子供連れが買い物中に、子供が泣き出してしまったりすると負担になると思う。夫婦で買い物に行った時でもどちらかは付き合わされた側になると思う。付き合わされる側になると歩くだけでもしんどく感じるのではないか。私も小さいころに母親の付き添いとかで行ったときは、しんどくて座りたいと感じたことがある。既存のショッピングモールとかには椅子が少ないし、あっても他の人が既に座ったりしており、そういったときにしんどいという感情が出てしまう。全員が楽しめる施設にするためにはそういうマイナスの感情をなくしていくべきだと思う。

●伊藤嘉秀議員
　他の人にも意見をお願いしたい。
○河合さん（１年）
　新居浜にはイオンがあるが、ファッションや生活用品に特化したブランド力のある商業施設、例えばコストコとかイケアとかアウトレットなど。最近はネットで買うことも多いが、アウトレットは割引価格で売られているため、自分たちでも買える値段であるため、友達とアウトレットに行くことが、楽しみの一つになると思う。
●伊藤嘉秀議員
　なかなか行政ではできない部分であるが、話し合いはできると思う。意見の中には施設のハード面と、ソフト面での意見があった。尾崎さん。
○尾崎さん（１年）
　若者をターゲットにした音楽フェスの開催をしてほしい。他県、他市から観光客も訪れ、新居浜がもっと盛り上がるのではないかと思う。
●伊藤嘉秀議員
　音楽フェスというのは具体的にはどういったものか。
○尾崎さん（１年）
　例えば、香川県のまんのう公園で開催されているモンバスのようなものである。
●伊藤嘉秀議員
　たくさんの人が集まって一緒に楽しめるようなものということか。
○尾崎さん（１年）
　そうです。
●伊藤嘉秀議員
　鎌田さんも意見を出していたと思う。
○鎌田さん（２年）
　イベントの増加を提案したい。一つはフードフェスの開催。サッカー部に所属しているが、よく愛媛ＦＣの試合を観戦しにニンジニアスタジアムに行くことがある。その時に、スタジアム前の広場でご当地グルメがあったり、子供が遊べる広場があったりしたが、新居浜にもそういったものがあればよいと思う。二つ目が花火大会についてであるが、新居浜の花火大会はきれいではあるが、周りの人からは他の花火大会と比べると、あまり人気がない。今治市のおんまく花火に行く人が多く、新居浜より今治の花火の方がきれいだという声がたくさんある。今は新居浜から今治に行く人が多いが、新居浜の花火ももう少し迫力があれば、今治からも人を呼べるようになり、新居浜の活性化につながるのではないか。
●伊藤嘉秀議員
　他に意見があれば。
○秦さん（２年）
　鎌田さんの意見に付け足すと、フードフェスをした場合、新居浜で他の地域のご飯を食べられるとなれば、他市から来てもらうことができ、こういったイベントが増えると、お金を使ってもらうことができ、経済的にも豊かになるのでは。フードフェスや音楽フェスなど人を呼べるようなことをしていけばよいと思う。
○永森さん（生徒会長）
　野田議員が言った意見に共感した。最初は新しいテーマパークやショッピングモールを作ることを考えていた。それだけではなく、若宮小学校が閉校となった後にワクリエ新居浜として新しい形として利用しているが、そういう感じで、今あるものにプラスして若い人たちが使える施設にするのもよいと思った。もう使うことがな

い施設の改良や、その近くに人を呼べる施設を作るなどして、そこでデートなどができるようにするなど、今あるものを使って新居浜の良さをより引き出して、みんなが行きたいと思えるものを作るのもいいなと思った。

○片岡さん（２年）

音楽フェスといえば、ステージに歌手が立って、ステージ前に観客がいるのがイメージとしてあるが、家族と出かけたときに、サービスエリアの端にある小さなステージに人が集まって演奏しているのを見ていいなと思ったことを思い出した。大きいステージでたくさんの人がいてというのも楽しいと思うが、ステージが小さくてもいいので、人が集まって楽しめるようなイベントがあればいいと思う。

●伊藤嘉秀議員

民間にお願いしなければならないことも多いが、議員からも意見があれば。

●高塚議員

皆さんの意見に同感するし、思いがひしひしと伝わってきた。新居浜市では高校生政策アイデアコンテストを毎年開催しており、高校生からはいろいろなアイデアを出してくれている。その中で、西高校のアイデアではあるが、独自に行ったアンケート結果から、新居浜市の魅力を知らない人が多いため、中高生ガイドによる新居浜市民向け観光ツアーを開催するということで、体験型の活動で市の魅力を再発見し、中高生のＵターン促進や魅力を発信できる市民を増やしていくという目的で、提案がされていた。何件かアイデアがあった中で、行政として市がぜひ実施したいものをピックアップし、実際に実施しているところである。先ほど話の合った花火大会は、本数は多く大きな花火大会ではあるが、おんまくと比べると情景が異なる。新居浜には海の近くにマリンパークもあるので、ロケーションの良いところで花火をするなど、制約もある中で皆さんにも知恵を出してもらえば、歌を中心としたものもできると思う。皆さんの思いは行政にも伝わると思うので、先ほどもいくつかアイデアをいただいたが、皆さんの若い力で、私たちには考えが及ばないような新鮮なアイデアやそういう思いを市に提案してもらいたい。

●藤田議員

フードフェスと聞いたら私は早食いのようなものを思い浮かべるが、例えばどて焼き 200 本食べるような競争を見たいのか、それとも沖縄のものや北海道のものを食べるのか、フェスにもいろいろなものがあると思うが、フードフェスの理想形はどのようなものか。

○鎌田さん（２年）

夏であれば夏の食べ物のように季節ごとにできればよいと思う。全国の食べ物が食べられれば良いと思う。その中で早食いとかみんなが楽しめるイベントもあればいいと思う。

●藤田議員

花火大会について、20 時 30 分開始で 30 分間しかないが盛大に打ちあがるのがいいのか、それともその時間を楽しみたいので、花火の間隔はあってもいいので 19 時 30 分とか 20 時に開始した方がいいのか、花火大会の開始時間とどういった演出があればいいのか、今の高校生の発想で教えてほしい。

○鎌田さん（２年）

新居浜の花火は１時間で８千発、今治のおんまくは１時間で１万発と２千発の差がある。今治の花火を見に行ったこともあるが、次から次へと打ちあがる感じで盛大に感じた。新居浜も負けてはいないが、打ち上げの数などに差があるので、打ち上げ数を増やすなどしてもっと盛大にしてもらいたい。

●神野議員

私は今治のおんまくに行ったことがないので、今年は行ってみたいと思う。新居浜の場合、打ち上げる場所の制約で、他の花火大会より打ち上げる号数が少し小さいものになっている。安全のために今以上に大きいものは上げることができないが、海であれば上げることができるので、そういったこともどんどん声を上げてほしい。フェスの話については、やってほしいという声よりもやりたいという声があれば、高校生が発信すれば、大人が頑張って高校生がやりたいことを助けたいなと思う。うわさに聞くところによれば、高校三年生、皆さんを含めてコロナでしんどい思いをした年代であるが、今年卒業の、市内の高校全ての三年生が卒業フェスをやろうと準備しているという話を耳にした。そういったこともどんどん引き継いでいってもらえれば面白いのではないかと思う。

●野田議員

質問であるが、生徒会長より今あるものにプラスしてよくしていくという発言があったが、車に乗っている私たちより普段自転車に乗っている高校生の方がいろいろなことに気付くことが多いと思う。この施設や建物、この場所はいいのにもったいないなと普段思っている場所とかがあれば教えてほしい。

○荒井さん（生徒会副会長）

上部の施設であるが、山根公園がいいと思う。体育館やテニスコートがあり、学生だけではなく、いろいろな人もスポーツができるなど楽しめる場所であり、緑も多く、比較的行きやすい場所であると思う。そこで何かをするのが良いのではと思う。

○永森さん（生徒会長）

滝の宮公園は、どちらかといえば子供や年配の人が使うイメージがあるが、大きな池や展望台からの景色などはもっと有効的に使えばいいデートスポットにもなると思う。もう少し若者が行きたいなと思う工夫をすればもっといい場所になるのではないかと思う。マリンパークもいい場所だと思う。

●井谷議員

片岡さんから、家族で出かけたときにサービスエリアのステージでの演奏が良かったとの話があったが、新居浜であればどういったところがあるのか教えてほしい。

○片岡さん（２年）

私が音楽という所であれば早く学校が終わったときにカラオケに行くとなったときに、私が行くのは西条市のカラオケ屋

に行く。新居浜にもカラオケ屋はあるが個人的に少し行きづらいと感じている。ステージとかでいえば文化センターとかの場所を借りて、カラオケ大会ではないがみんなで好きなように歌ったり聞いたりして楽しむ、そういうのもあると思う。

●伊藤優子議員

私の娘の話になるが、東京の大学に進学していたが、新居浜には海も山もあるので帰りたいといって帰ってきた。コストコやディズニーは行ったときに遊ぶことができるが、新居浜は海であれば魚が釣れるし、ワラビやタケノコも取れるが、そういったところはどのように思っているのか。

○荒井さん（生徒会副会長）

いろいろ作ってほしいという意見を出したが、一つしかない地元である。山があったり海があったり、災害に強かったり、一番は地元だと思うので、大好きではある。

●伊藤嘉秀議員

いい意見を出してもらったところで次のテーマに移りたい。

【３　生活空間の改善】

●伊藤嘉秀議員

次のテーマについて、生活空間の改善を要望したいとの声があった。片岡さんからは大学誘致をしてほしいとの意見があった。

○片岡さん（２年）

私は保育士になりたいと考えているが、愛媛には保育系の大学があまりない。私のいとこが卒園した園が少子化で廃園になった。県外に進学した場合、戻ってくるとなったときに、保育士はずっと続けたいと思っているため、保育士として安定して働ける場所があってほしい。また、姉が関西の大学に進学し、多くのことを学んだことで進むべき道を見つけ、その地域と絡んだことをしているので、新居浜に大学ができた場合、実習等でも使えると思うし、そこで新居浜の魅力を知ってもらい、ここに来てもらえる人も増えるのではと考える。

●伊藤優子議員

昔は新居浜にも大学があったが、学生が新居浜に来ないのでなくなってしまった。保育士など特化したものであれば分かるが、大学を誘致するというのはかなり難しいかもしれない。これから少子化で子供がいなくなり、大学も減少していく中、大学を誘致するというのは難しいと考える。

●伊藤嘉秀議員

難しいといっても、そういう夢もあっていいと思う。昔から新居浜市は大学を誘致したいという課題はあった。新居浜高専も大学化したいなどいろいろな課題はあった。それをみんなで解決していけるように話合いできればと思う。生活空間の改善について、切実なことであるが、正月に能登半島で地震が発生したが、秦さん。

○秦さん（２年）

愛媛県、四国全体で、近いうちに南海トラフ地震が起こるといわれている。能登半島地震でも地震が起きた際に家が倒壊し、下敷きになり逃げきれず、亡くなってしまった方や、逃げる際に車で逃げる人もいると思うが、家の倒壊で道路がふさがって逃げられないということがあると、私たちも逃げにくいし、高齢者をかばいながら避難する人もいると思うが、そういう人たちが逃げ遅れてしまうと思うので、古い建物や耐震性が低い建物の強化をしていけば、対策になるのではないかと思う。そういった

対策は市でできるのか。

●伊藤優子議員

昭和 56 年以前に建てた建物は耐震基準が低いため、それらの建物については、新居浜市でも耐震診断はしてもらえるようになっており、補助もある。また、補強の必要があるとの結果が出れば、それに対しても一部補助ができるようになっている。ただ、壊れかけの空き家などについては相続手続きなどがされておらず、誰の持ち物かわからないものもあるが、新しい制度ができて、４月１日からはそういう建物に対して罰金がかかるようになる。また、土地の税金は家が建っていると６分の１になる制度があるため、古い建物をそのまま置いている人も多いが、そういう建物はその制度の適用が外れることになるため、これからは整備されていくのではないかと思う。

●伊藤謙司議員

テレビで地震の報道などしているが、南海トラフ地震は震度６とか７とか言われている。私の持論になるが、学校のように鉄筋やブレスを入れれば耐えると思うが、あのような地震があれば、普通の家は危険だと思う。家から出なければ危ないので、避難訓練をもっとして、高齢者も出られるようにする方が現実的だと思う。お金をかけて家を補強しても、あれだけの地震がきたら非常に危険なので、家にも水など備蓄しておく方がいいと思う。あと、耐震ベッドといって、ベッドにロールバーのような鉄骨が入ったものがある。そういうものがあれば家が倒壊しても空間が保てるので、そういうものに対する補助を市も考えて、導入していければよいと思う。

●伊藤嘉秀議員

市としては危機管理課という部署で地震など災害に向けた対策を行っている。秦さんからは空き家対策についてもう一つ意見があった。

○秦さん（２年）

特定空き家になれば撤去を強制できるというのを見た。地震で建物が崩れて危ないというのもあるが、津波で建物が流されているのが印象に残っているので、なるべく指定できるものは特定空き家に指定してもらい、取り壊しを強制してほしいと私は思う。

●伊藤嘉秀議員

空き家が増えてきており新居浜市も困っているが、空き家に対する法改正もされており、空き家のままだと税金が高くなるので、取り壊しや利用を促すようになってきていると思う。浅木さんからも生活空間の改善について意見があった。

○浅木さん（２年）

商店街の活性化について、通学の時などに商店街を通るが、シャッターが閉まっていて寂しいと思う。松山の大街道のように商店街が明るくなれば市も明るくなるのではないかと思う。新居浜市の商店街でもイベントは行われているが、イベントを

するだけではなく、商店街にある店も開いているほうが人も集まると思うし、音楽のちょっとしたライブなども商店街を上手く使えば開催できると思うので、そういった面も含めて商店街の活性化を進めていければいいと思う。

●伊藤嘉秀議員

この生活空間の改善については、一つ一つが大きな課題で、新居浜市全体で長い間悩んでいることである。

●伊藤謙司議員

私は北中学校出身であるが、夜市をアーケードでしていたが、フェスも同じで夜市みたいなものをもうちょっとやっていって盛り上げていかなければ、商店街のお店を開けるといっても儲からなければお店もできないので、一つからでも盛り上げていかなければシャッター街をなんとかするのはそうそう上手くいかないと思う。大街道なども最近はシャッターが閉まっている店も増えており、なかなか人が集まらなくなっているが、商店街の人たちが一生懸命夜市などをしている。ああいうのから始めていかなければ難しい。昔は本当に派手であったので、そうなったらいいと思うので、頑張りたい。

●神野議員

商店街は伊藤議員が言ったように市として長い課題である。市としては、空き家の店舗を改修し、出店すると、そこの改修費 100 万円を補助するなどしている。全国的にしていると思うが、行政が入れるところというのはお金でしかないのかもしれないが、こういうことをすれば商店街が盛り上がるのではということがあれば、私らも頑張るので、教えてほしい。

【まとめ・閉会挨拶】

●伊藤嘉秀議員

意見交換会は 10 年ほどやってきたが、おそらくこれだけの人数の高校生から面と向かって意見を聞くというのは初めての試みではないかと思う。たくさんの意見を聞かせてもらい、ありがとうございました。生徒会長から代表して最後に何かあれば。

〇永森さん（生徒会長）

今日、いろいろな話をさせてもらったが、自分一人で考えていると出なかっただろうなという意見もあったし、自分が言うことで市議会議員の皆さんに気付いてもらえることもあると思うので、今回だけではなく、またすることで新居浜市を活性化させるということで、もともと私も新居浜市が好きで、住みやすいなと思っているので、だからこそ今いる人は長く居られるように、新居浜市に来ていない他の地域の人には一度でも新居浜市に来てもらって良さに気付いてもらい、住んでもらったり周りの人に良さを伝えてもらったりということにつながればいいと思う。

●伊藤嘉秀議員

たくさんの意見を若い方からいただいた。ちょっとした日常、非日常的なことを体験したいとか、若い方に向けた施策が少し手薄だったのかなと感じる部分もあった。たくさんのご意見をありがとうございました。ぜひ市の職員と議員が相談してより魅力のある新居浜をつくっていきたいと思う。また、５、６年後に、皆さんが新居浜に帰ってきて、一緒に町づくりに取り組んでいただけることをお願いして、本日の意見交換会を終わらせていただく。あり

がとうございました。